

芙蓉リースグループ  
CSR報告書  
2016



**FUYO LEASE**

# CSR

企業の社会的責任



## CSR

企業の社会的責任



美術館の厳格な  
温湿度管理を実現



高齢者の安心な  
住まいのために



環境とコストに配慮した  
安全で安心な  
ソリューションを提供



再生可能エネルギー  
の供給による  
地球環境保全



## トップメッセージ

代表取締役社長 辻田 泰徳

[詳しくはこちら](#)



## 芙蓉リースグループのCSR

- ▶ 経営理念
- ▶ CSRの考え
- ▶ CSRの重要課題と行動指針
- ▶ 芙蓉リースグループとステークホルダー

## 芙蓉リースグループの概要

- ▶ 会社概要
- ▶ 事業概要

[トップメッセージ](#)

[美術館の厳格な温湿度  
管理を実現](#)

[高齢者の安心な住まいの  
ために](#)

[環境とコストに配慮した  
安全で安心なソリューション  
を提供](#)

[再生可能エネルギーの  
供給による地球環境保全](#)

[芙蓉リースグループのCSR](#)

[芙蓉リースグループの  
概要](#)

[環境報告](#)

[社会性報告](#)

[ガバナンスとマネジメント](#)

[グループ各社の環境・  
社会への取り組み](#)

[大阪府流入車規制](#)

[編集方針](#)

[第三者意見](#)

## 環境報告



- ▶ 環境先進企業をめざして
- ▶ 環境理念／環境方針
- ▶ 環境マネジメント
- ▶ 環境会計
- ▶ 芙蓉リースグループの主な環境目標
- ▶ 環境パフォーマンス
- ▶ 環境配慮型商品・サービスの一覧

## 社会性報告



- ▶ お客様との関わり
- ▶ 株主との関わり
- ▶ 地域社会との関わり
- ▶ 社員との関わり

## ガバナンスとマネジメント



- ▶ コーポレート・ガバナンス
- ▶ リスク管理／コンプライアンス
- ▶ 情報セキュリティへの取り組み

## グループ各社の環境・社会への取り組み



- ▶ シャープファイナンス
- ▶ 芙蓉オートリース
- ▶ エフ・ネット
- ▶ 芙蓉リース販売
- ▶ エフ・ジー・エル・サービス
- ▶ アクア・アート

[「CSR報告書」  
PDFダウンロード](#)



[環境配慮型商品・  
サービスの一覧](#)



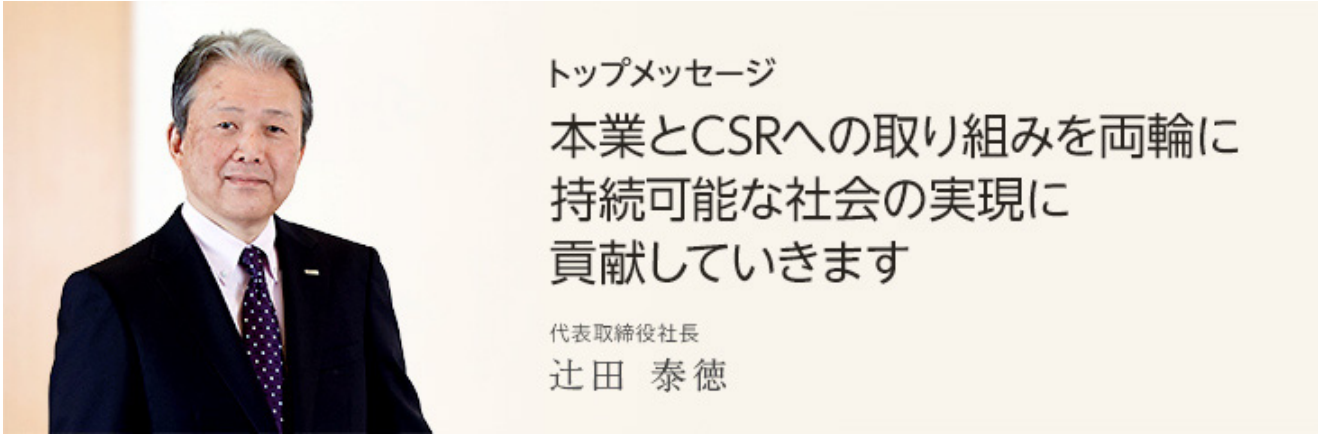
[大阪府流入車規制](#)

[編集方針](#)

[第三者意見](#)

[CSRについてのお問い合わせはこちら](#)

2	トップメッセージ
4	ESCOサービス
6	建物リース
8	リマーケティング事業
10	太陽光発電事業
11	芙蓉リースグループのCSR
18	芙蓉リースグループの概要
21	環境報告
41	社会性報告
62	ガバナンスとマネジメント
67	グループ各社の環境・社会への取り組み
79	大阪府流入車規制
80	編集方針
82	第三者意見
83	「CSR 報告書」 PDF ダウンロード



皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。2016年4月1日付で代表取締役社長に就任いたしました辻田泰徳でございます。

まずは、4月の熊本地震により被災されたみなさまに、心からお見舞い申し上げます。

芙蓉リースグループは、社会の一員として、環境問題の解決や社会の発展に貢献し続けていきたいと考えています。そのためには、リースを中核とする本業をベースに取り組みを行っていくこと、そして当社グループらしいCSRへの取り組みを行っていくことが重要になると認識しています。

このことを社内外のステークホルダー [▼用語解説](#) に明確に示すべく、2014年4月には「CSR行動指針」を策定しました。さらに中期経営計画「Value Creation 300」に合わせ、2016年度までのCSRへの取り組みに関する数値目標を設定し、グループを挙げて活動を進めています。

その一つが、ESCO [▼用語解説](#) 事業の推進です。同事業用の設備をはじめとする環境配慮型物件の取得金額は、2015年度において計画を大きく上回りました。また、再生可能エネルギー事業も順調に拡大しており、2016年3月末までに29カ所の大規模太陽光発電所を稼働させ、一般家庭約23,000世帯の使用電力に相当するクリーンエネルギーを供給しています。

福祉・健康分野への取り組みも強化しています。2016年4月には当社の建物リースを活用した初の介護施設がオープンしました。今後も、多様な方法で福祉・健康分野に力を注いでいきます。

インテリア水槽「アクア・アート」を活用した「アクアdeスマイル」は、当社グループならではの社会貢献活動です。毎年学生の皆様を対象にした水槽内のデザインコンペや、お子様向けに熱帯魚の生態を教える出前授業などを実施しています。

企業として成長し、社会の発展に貢献し続けていくためには、多様な社員の力が不可欠であると私は考えています。こうした考えのもとに、女性の活躍推進に向けた目標を定めるなど、すべての社員がこれまで以上に活躍できる環境づくりに取り組んでいます。

芙蓉リースグループは、今後もこれらの取り組みを継続していくことで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



## ● CSR行動指針

FUYO LEASEグループは、「人と地球にやさしい」事業に真摯に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。

- 1 環境関連分野におけるリースや商品・サービスを、積極的に提案・提供します。
- 2 再生可能エネルギー事業者として、クリーンエネルギーの供給を推進します。
- 3 **3R** [▼用語解説](#) の実践領域を拡大し、廃棄物の発生を抑えた循環型社会の実現に寄与します。
- 4 アクア・アート事業を通じて、オフィスや街中、そして都会の子供たちに「自然に触れる機会」と「笑顔」を届けます。

## ■ CSR活動の目標値と実績

項目	2015年度計画	2015年度実績	2016年度目標
環境提案の件数	2,100件	1,908件	2,300件
環境配慮型物件の取得金額	90億円	264億円	100億円
クリーンエネルギーの供給	65MW	76MW	100MW
リマーケティングの買取物件数	60,000件	71,073件	100,000件
アクア・アートの稼働台数	888台	893台	900台

### 用語解説

#### ステークホルダー

ステークホルダーとは、組織をとりまく利害関係者のことです。企業などの組織は、事業活動をするうえで、さまざまなステークホルダーと利害関係を持っているため、ステークホルダーとの信頼関係の構築は、組織の持続的な発展のうえで不可欠な要素です。

経済産業省は、環境パフォーマンス指標を定めたなかで、ステークホルダーを次のように分類しています。(1)従業員、(2)投資家、(3)取引先、(4)請負業者、(5)金融機関、(6)環境法規制の関連団体など、(7)地域住民、(8)マスコミ、(9)行政、(10)NGO(非政府組織)、(11)グリーンコンシューマー、(12)一般市民・消費者。

#### ESCO(Energy Service Company)

ESCOは、省エネに関する提案や設備導入、資金調達など包括的なサービスを提供するものです。お客様はサービスを利用することで削減されたコストからESCO事業者にも費用を支払うため、追加費用を負担せずに省エネを実現でき、将来的な経費の削減にもつながります。

#### 3R(リデュース/廃棄物の発生抑制・リユース・リサイクル)

3Rとは、スリーアールと読み、(1)廃棄物の発生抑制(Reduce=リデュース)、(2)資源や製品の再使用(Reuse=リユース)、(3)再生利用(Recycle=リサイクル)のことです。3R活動とは、上の3つのRに取り組むことでゴミを限りなく少なくし、そのことでゴミの焼却や埋立処分による環境への悪い影響を極力減らすことと、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会(=循環型社会)をつくらうとするものです。



芙蓉リースは、アズビル株式会社と共同事業で、東京藝術大学大学美術館に「ESCOサービス」※1を提供し、美術品保護と大幅な省エネルギーの双方の実現に貢献しました。

1999年に設立された同美術館には、国宝や重要文化財を含む貴重な美術品が多数収蔵されています。デリケートな美術品の保管にあたっては、収蔵庫の温湿度を常に適切に保つ必要がありますが、2012年頃から熱源設備の老朽化の兆候が見られ、設備更新が検討されていました。美術館のある上野キャンパスは、東京都の環境保護条例で指定された大規模事業所としてCO<sub>2</sub>排出量の削減が義務づけられており、同キャンパス全体のエネルギーの約3分の1を消費していた美術館の省エネも課題でした。



同美術館のESCO事業者公募に対し、芙蓉リースとアズビル株式会社は、老朽化した熱源設備の単純更新にとどまらず、BEMS※2の導入や空調制御などの各種省エネメニューに経済産業省の補助金を活用したファイナンスプランを付加させたワンストップサービスを提案。これらによってエネルギー使用量を直近3年間平均の46.2%に削減するという計画が評価され、選定されました。

新設備による運用は2015年4月から始まりました。運用の結果、収蔵庫は温度22℃、湿度55%と美術品の保護に最適な状態を維持しつつ、2015年度のエネルギー使用量の削減率は、計画を上回る55.3%を達成。CO<sub>2</sub>排出量も都の条例が定める削減義務を超える成果が出ています。

※1 ESCO(Energy Service Company)とは

ESCOは、省エネに関する提案や設備導入、資金調達など包括的なサービスを提供するものです。お客様はサービスを利用することで削減されたコストからESCO事業者が費用を支払うため、追加費用を負担せずに省エネを実現でき、将来的な経費の削減にもつながります。

※2 BEMS(Building and Energy Management System)

室内環境とエネルギー消費の最適化を図るためのビル管理システム。

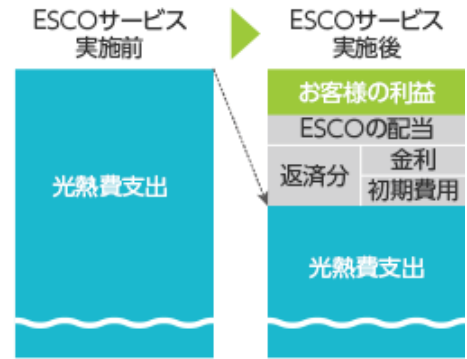


真空式温水発生機



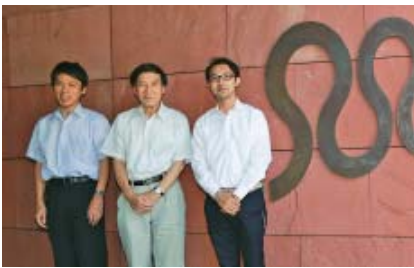
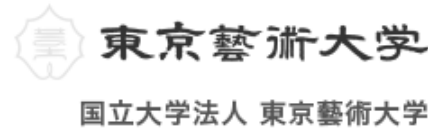
高効率熱源機

「東京藝術大学大学美術館」におけるESCOサービスによる省エネ効果



Customer's VOICE

「文化財保護と環境負荷低減という課題の解決につながる提案を評価しています」



施設課  
(左から)  
設備係 係員 大沼 邦成 様  
設備係 専門員 佐藤 久志 様  
施設企画係 主任 藤井 基城 様

公募時点では、省エネ改修工事が貴重な文化財に影響を与えないか多少の不安がありましたが、改修によって大きな省エネ効果を上げながら、温湿度は高いレベルで安定しており、不安は見事に払拭されました。大学美術館は文化庁の公開承認施設の認定を受けており、認定更新の監査では収蔵庫の温湿度管理は「ほぼ完璧」と高く評価されました。

また、従前は夜間・休日のトラブル対応に難渋していましたが、ESCO事業者の遠隔監視サービスを導入したことで、24時間監視が可能になり、トラブル発生時にも迅速に対応してもらえるので、収蔵品の安心・安全な管理と保守費の抑制にもつながっています。





# 高齢者の 安心な住まいのために

## 不足する高齢者向け施設の整備に 貢献する「建物リース」

ニチイホーム 昭島の森(右側)とアイリスガーデン 昭島の森(左側)

芙蓉リースは、不動産リースの新たな分野として、高齢者向け施設の建物リースを始めました。

その第一弾として取り組んだのは、株式会社ニチイケアパレスが東京都昭島市で運営する「介護付有料老人ホーム※<sup>1</sup> ニチイホーム 昭島 昭和の森(総室数77)」と、併設する「サービス付き高齢者向け住宅※<sup>2</sup> アイリスガーデン 昭島 昭和の森(総戸数51)」で、2016年4月にオープンしました。

日本では高齢者が年々増加するなか、高齢者が安心して住める施設の不足が社会的課題の一つとなっています。2025年には、東京都と周辺3県で介護施設が約13万人分不足するとの推計もあります。

当社では、今後もさまざまなファイナンスサービスを通じて、高齢者向け施設をはじめとする「福祉貢献型建物」の整備に貢献していきます。

### ※<sup>1</sup>「介護付有料老人ホーム」

行政から「特定施設入居者生活介護」の指定を受けた施設。24時間の見守り体制で、食事をはじめとした健康管理、掃除や洗濯、入浴、排泄などの介護サービスを提供します。

### ※<sup>2</sup>「サービス付き高齢者向け住宅」

バリアフリー構造等を有し、安否確認・生活相談のサービスを提供する住宅。高齢者の居住の安定を確保することを目的に、国土交通省、厚生労働省の共管制度として創設されました。



アイリスガーデン



ニチイホーム



ニチイホーム





### 特別浴室

寝たきりの人や、座位を保つのが困難な人のための浴室です。スタッフのサポートで安心して入浴できます。



### 一般浴室

各室の個人浴室とは別に備えた大きな浴室です。滑りにくい床材を使用し、清潔で開放感あふれるなか、ゆったりと入浴を楽しめます。

## Customer's VOICE

「建物リースに大変満足しています」

やさしさを、  
私たちの強さにしたい。



株式会社ニチイケアパレス



代表取締役社長 秋山 幸男 様(左)  
営業支援部 部長 吉濱 洋平 様(右)

ニチイグループは「トータル介護サービス」を全国で提供しています。その中でニチイケアパレスは、「介護付有料老人ホーム ニチイホーム」と「サービス付き高齢者向け住宅 アイリスガーデン」を首都圏中心に展開しています。

「昭島 昭和の森」は緑豊かな住宅地にあり、商業施設や文化・スポーツ施設など周辺の環境にも恵まれ、入居者の皆様に大変喜ばれています。また、アイリスガーデンとニチイホームを併設することで、元気なうちはアイリスガーデンで、見守りや介護が必要になったらニチイホームでと、将来の住み替えも安心な施設です。

今回、芙蓉リースの建物リースを活用することで、こうした条件の良い用地を使えることになりました。施設も当社の希望通りの仕様で、非常に満足しています。さらに、事務・管理業務の面でも大幅な省力化・効率化につながっています。建物リースは、「設備資金調達の一手法」としてだけでなく、事業者にとってさまざまなメリットがあると実感しました。

# 環境とコストに配慮した 安全で安心な ソリューションを提供

3Rの推進に貢献する  
「リマーケティング事業」



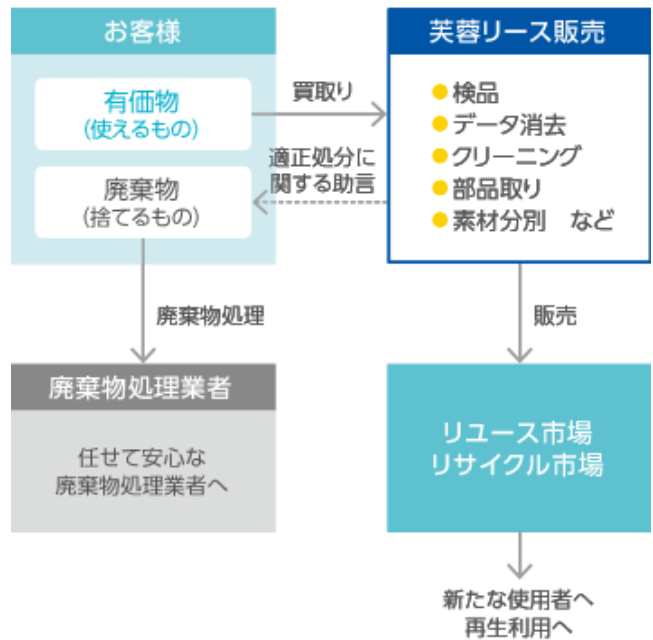
JXグループ新本社の入居ビル(大手門タワー・JXビル: 皇居大手門前)

芙蓉リースのリース満了処理を担当するグループ会社 芙蓉リース販売では、長年培ったリース満了物件処分のノウハウを活かして、お客様の不要資産の処分に際し、環境とコストに配慮した安全で安心なソリューションを提供する「リマーケティング事業」を展開しています。

企業の事務所の移転や機器の入れ替えなどにおいて発生する不要資産は、捨ててしまえば「廃棄物」となり、廃棄費用もかかります。そこで、芙蓉リース販売では、これら中古資産のうち、有価物を買取り、リユース・リサイクル市場を通じて、新たな使用者に販売することで、再利用を促進しています。買取りにあたっては、ご要望に応じてパソコンなどの情報機器に含まれるデータ消去も承っています。

また、リユース・リサイクルが困難な物件に関しては、お客様に対し廃棄物の適正処分に関する助言も行っています。

## リマーケティング事業の仕組み



## リユース・リサイクルの中核拠点 東京3Rセンター

2013年3月に東京都八王子市に移転・拡大した「東京3Rセンター」は、リース満了物件とリマーケティング事業による買取り物件をリユース・リサイクルする中核拠点です。循環型社会への貢献をめざすとともに、万全の情報セキュリティ体制による施設運営を行っています。

本格稼働した2013年度以降、取扱い物件数は毎年順調に増加しています。



JQA-EM5442



MS  
JAB  
CM009



JQA-IM1194

東京3Rセンター ISR業務



ISMS ISO/IEC 27001  
ISR001



### Customer's VOICE

「コストと環境負荷を抑えながら、  
大規模なオフィス移転を実現」

**JX** JX不動産株式会社



ビル事業部 大手町営業所  
所長 栗田 康史 様

当社は、世界有数の「総合エネルギー・資源・素材グループ」であるJXグループの不動産関連業務を担っており、2015年11月のJXグループ本社移転プロジェクトをサポートしました。

他所への移転組も含め、社員3,200人が使うオフィスの大移動。このプロジェクトの実施にあたって、思わぬ課題となったのが、机・椅子・キャビネットなどの什器や事務機器の処分でした。

「大量の廃棄物の発生とその処理費用」という難題をかかえ、複数社から解決策の提案を頂きましたが、オフィス移転ビジネスの豊富な実績と什器類の買い取りにおけるコストパフォーマンスの良さ、そして長年の取引実績による信頼感などから、芙蓉リース販売の「リマーケティング」サービスを採用しました。

サービスの利用に際して結んだ「エコソリューション契約」により、多岐にわたる物件処分先の管理・支払いが一本化され業務の効率化が図れると同時に、中古什器類の一部を他の業者に比べて高く売却できたことから、移転コストの抑制、廃棄物の削減にもつながりました。

JXグループは、持続可能な経済・社会の発展に貢献することを理念に掲げており、移転に伴う環境負荷を抑制できたことは大きな成果の一つだったと考えています。





2015年11月に運転を開始した北海道十勝郡浦幌町の大規模太陽光発電所

太陽光発電の特長は、太陽光という無料で無尽蔵のエネルギー源を活用していることと、発電の際に温室効果ガスを排出しないことです。ほかにも、「遊休地を有効利用できる」「発電時に騒音や有害物質を出さない」「事故が起きるリスクが小さい」など、多くのメリットがあります。

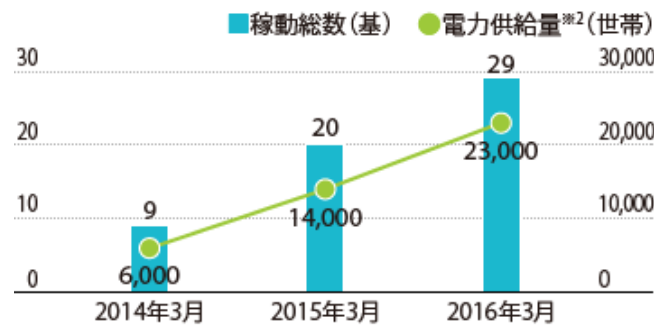
芙蓉リースは、2012年に子会社を通じて太陽光発電事業に進出。以降、2016年3月までに全国29カ所に大規模太陽光発電所（メガソーラー※1）を開設し、約23,000世帯分の電力を供給しています。※2 直近では、2015年12月から、福島県の南相馬市と栃木県塩谷郡塩谷町で商業運転を開始。両発電所合わせた年間予測発電量は、一般家庭の年間消費電力量で約1,283世帯分になります。※2

当社では今後も太陽光発電事業を通じ、再生可能エネルギーの普及に努め、地球環境保全に取り組んでいきます。

※1 出力が1MW（メガワット＝1000kW）以上の大規模な太陽光発電所

※2 一世帯当たり3,600kWhで算出

### 稼働総数と電力供給量





## 経営理念

- リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する。
- 顧客第一主義に徹し、最高のサービスを提供する。
- 創造と革新を追求し、株主・市場から評価される企業を目指す。
- 自ら考え積極的に行動する社員を育て、働き甲斐のある職場を創る。

# CSRの考え

---

## CSR活動のさらなる進化をめざして

---

### 担当役員メッセージ

CSR活動を進める際にキーワードとなるサステナビリティ(Sustainability)。

「持続可能性」と邦訳されるこの言葉は、30年ほど前から主に環境保護分野で使われ始め、昨今はビジネスシーンにおいても見聞きすることがたいへん多くなりました。

企業が持続的に発展していくためには、自らが企業価値を向上させ、その価値をさまざまなステークホルダーに還元するとともに、リスクマネジメントを徹底することが必要です。

社会からの信頼の獲得と経済的な成果は不可分で、その両立なくして企業が持続的な成長を遂げることはできません。

力強く事業を展開し、自ら律することに厳しく、人と社会・環境に優しい。芙蓉リースグループは、事業活動とCSR活動の両面で、このような企業であり続けたいと考えています。

古いハードボイルド小説にあった「If I wasn't hard, I wouldn't be alive. If I couldn't ever be gentle, I wouldn't deserve to be alive.——強くなければ生きていけない。優しくなれなければ生きている資格がない。——」という台詞通りの企業活動を実践してまいります。



常務取締役 藤田 義治

## 経営理念に基づくCSRの実践

---

芙蓉リースグループは、経営理念に基づき、「リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する」ことを優先的に取り組むべきCSR活動と位置づけ、その実践にグループ一丸となって取り組んでいます。

## リース事業を通じた社会への貢献

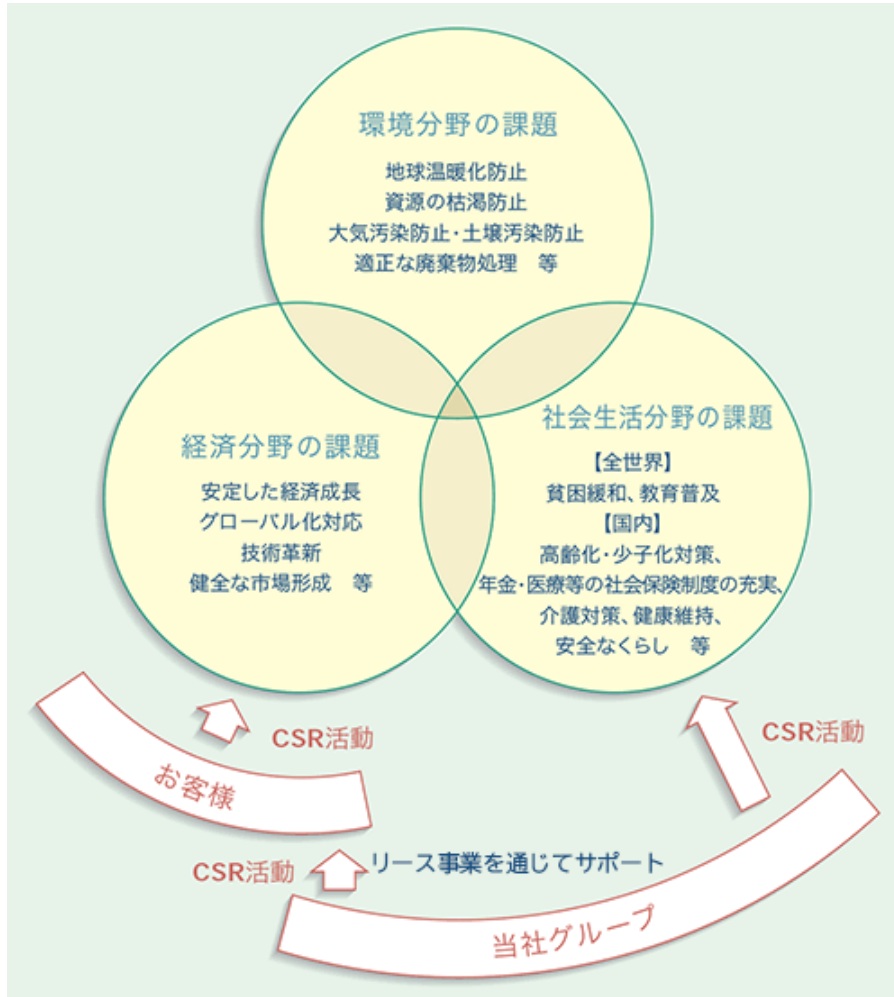
---

リースをはじめとした各種の金融機能を駆使して、環境や社会問題の解決に向けたお客様の設備投資をサポートしています。また、リース満了物件の3R(リデュース・リユース・リサイクル)を通じて、循環型社会の構築に寄与しています。

## 各種の金融機能で、環境や社会問題の解決に向けたお客様の設備投資をサポート

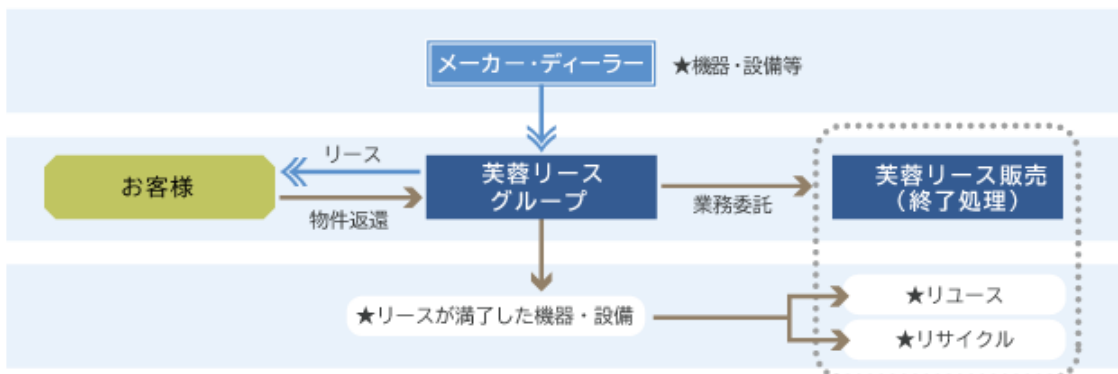
芙蓉リースは、社会が抱えるさまざまな課題の解決につながるお客様の設備投資を、各種の金融機能によってサポートしています。

例えば、環境分野では、省エネ関連機器や再生可能エネルギー設備のリース、エコカーのリース、ESCOサービスなどを、また社会生活分野では、医療機器や食品関連機器、航空機や鉄道、防災・防犯関連機器などをリースし、環境にやさしく、健康で安全な暮らしを支えています。



## リース満了物件の3Rを推進し、循環型社会の構築に寄与

リースが満了して芙蓉リースに返却された機器・設備などに対する、リデュース(廃棄物の発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)を推進し、循環型社会構築に寄与しています。



# CSRの重要課題と行動指針

## 重要課題への取り組み

芙蓉リースグループは、社会の一員として持続的に成長していくためには、その事業を通じて地球環境問題の解決や社会の発展に積極的に貢献していくことが重要であると考えています。こうした考えをグループ全体で共有し、一丸となって取り組んでいくためには、CSRにおける重要課題(マテリアリティ)をできるだけ具体的に特定するとともに、その優先順位づけを行う必要があります。

当社グループでは、社内外のステークホルダーの視点や要請を取り入れた4つのステップで重要課題の特定と優先順位づけを行いました。また、2014年度～2016年度を対象年度とする中期経営計画「Value Creation 300」のスタートに合わせて、「CSR行動指針」とそれに基づく2016年度までの数値目標(KPI)を策定し、重要課題に対する取り組みを推進しています。

### ● CSR行動指針

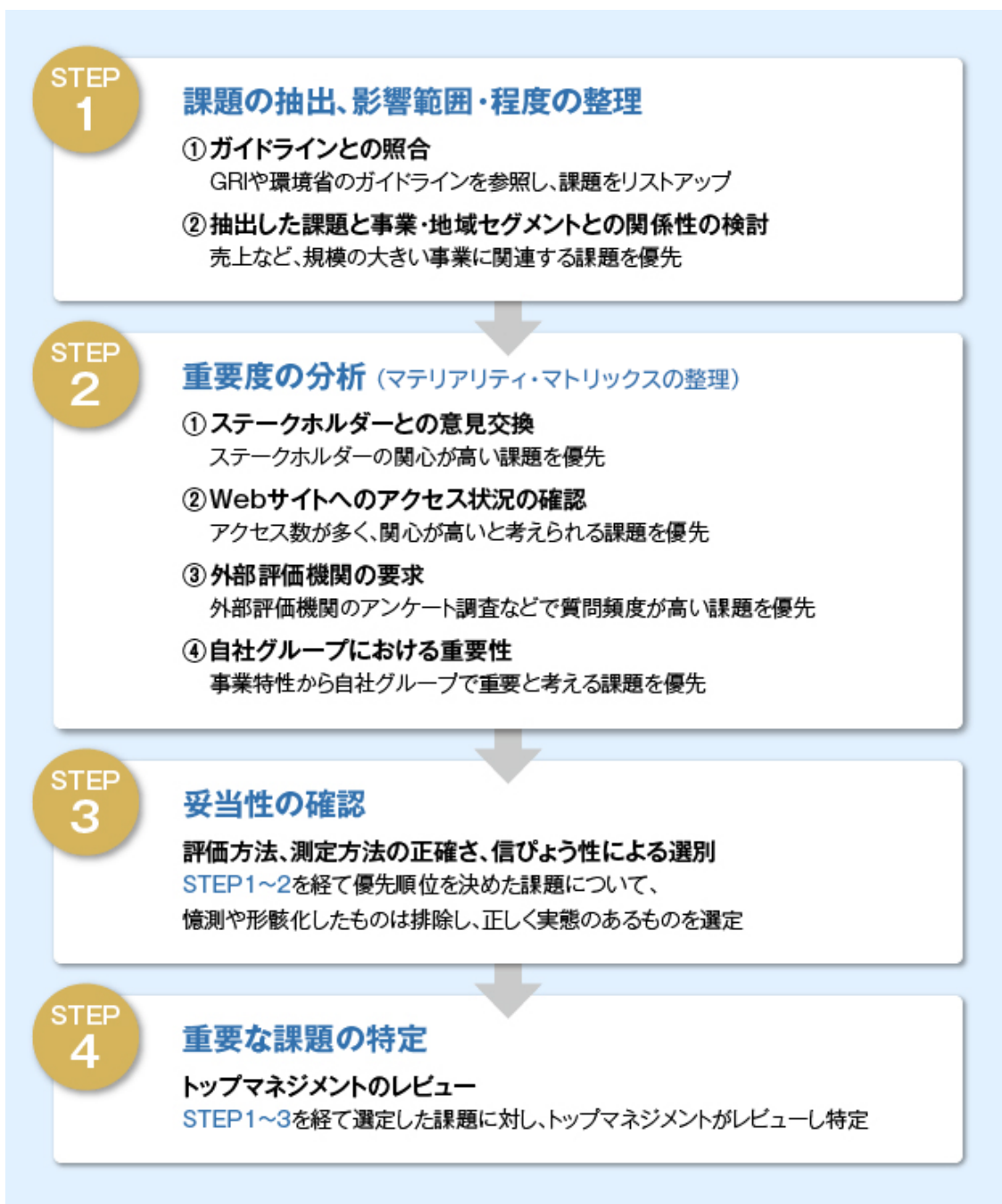
FUYO LEASEグループは、「人と地球にやさしい」事業に真摯に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。

- ① 環境関連分野におけるリースや商品・サービスを、積極的に提案・提供します。
- ② 再生可能エネルギー事業者として、クリーンエネルギーの供給を推進します。
- ③ 3Rの実践領域を拡大し、廃棄物の発生を抑えた循環型社会の実現に寄与します。
- ④ アクア・アート事業を通じて、オフィスや街中、そして都会の子供たちに「自然に触れる機会」と「笑顔」を届けます。

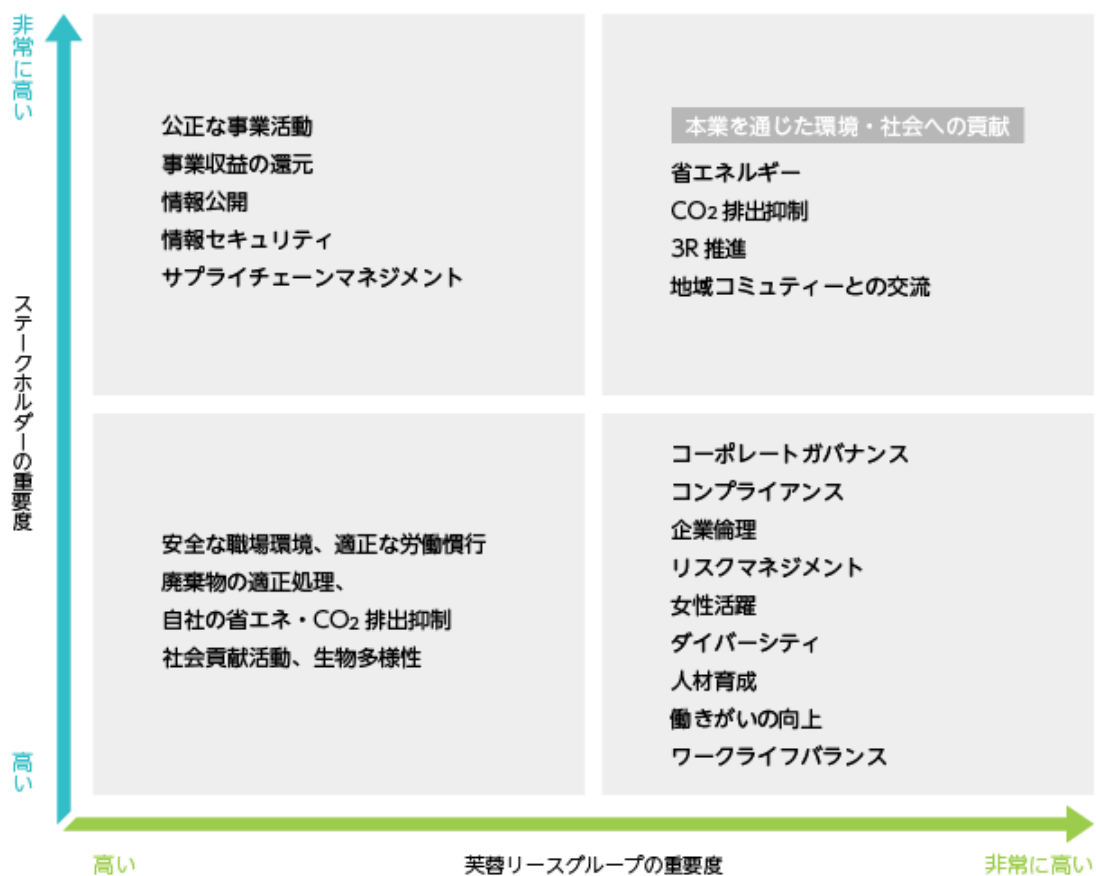
### ■ CSR活動の目標値と実績

項目	2015年度計画	2015年度実績	2016年度目標
環境提案の件数	2,100件	1,908件	2,300件
環境配慮型物件の取得金額	90億円	264億円	100億円
クリーンエネルギーの供給	65MW	76MW	100MW
リマーケティングの買取物件数	60,000件	71,073件	100,000件
アクア・アートの稼働台数	888台	893台	900台





## マテリアリティ・マトリックス



# 芙蓉リースグループとステークホルダー

## ■ 芙蓉リースグループとステークホルダー

当社グループは、従業員がやり甲斐を持って働くことのできる環境を提供し、従業員のさまざまな能力を高めていくことが、重要な戦略のひとつと考えています。  
当社グループは、すべての従業員に公正で明るい職場を提供し、成果に応じた処遇を行なっています。

当社グループのお客様は、ユーザーのほか、メーカー・ディーラーなど広い範囲にわたります。  
当社グループは、誠実かつ公正な企業活動の遂行によって、お客様に対し最高のサービスのご提供に努めています。

当社グループは、株主の皆様に対し長期的・安定的な利益還元を努めることを基本方針としています。また、適時・適正・公平な情報開示を原則とし、透明性の高い経営を目指しています。

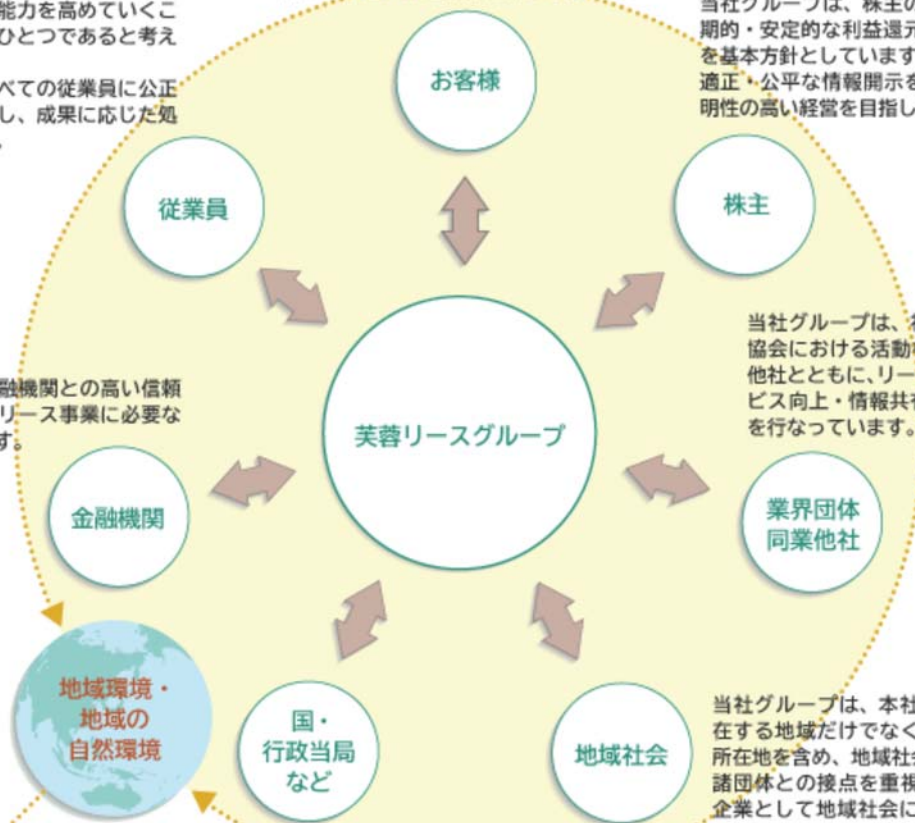
当社グループは、金融機関との高い信頼関係を維持しつつ、リース事業に必要な資金を調達しています。

当社グループは、社団法人リース事業協会における活動などを通じて、同業他社とともに、リース事業の充実とサービス向上・情報共有などにに向けた活動を行なっています。

当社グループは、地球環境問題・地域の自然環境問題に対処するため、リース事業を通じて環境への取り組みを積極的に推進するとともに、自らの環境負荷の低減に努めています。

当社グループは、日本国や業務の所管省庁、地方公共団体と適切な関係を保持します。また、海外現地法人所在地の国家や行政当局などとも健全な関係を維持しています。

当社グループは、本社・支店などが所在する地域だけでなく、リース物件の所在地を含め、地域社会の方々・企業・諸団体との接点を重視し、責任ある一企業として地域社会に根ざして活動しています。



# 会社概要

## 企業データ(2016年3月31日現在)

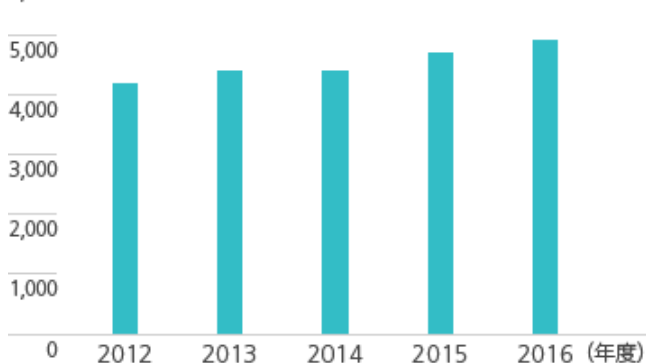
商号	芙蓉総合リース株式会社(Fuyo General Lease Co., Ltd.)
設立	1969年5月1日
資本金	10,532百万円
上場市場	東京証券取引所 市場第一部(コード: 8424)
従業員数	連結1,559名、単体670名
本社所在地	東京都千代田区三崎町3丁目3番23号 TEL: 03(5275)8800(代)
事業内容	情報関連機器、事務用機器、産業機械、工作機械、商業用店舗設備、医療機器、船舶/航空機/車両ならびに輸送用機器、建築土木機械などのリースおよび割賦販売業務 金銭の貸付、その他各種金融業務 不動産リース 生命保険の募集業務 各種コンサルティング業務
営業拠点	国内: 本社営業部および16拠点 海外現地法人: 5社6拠点
主な国内連結子会社	シャープファイナンス株式会社 芙蓉オートリース株式会社 株式会社エフ・ネット 株式会社芙蓉リース販売 株式会社エフ・ジー・エル・サービス 株式会社アクア・アート



## 業績などの推移(連結) ※3月決算

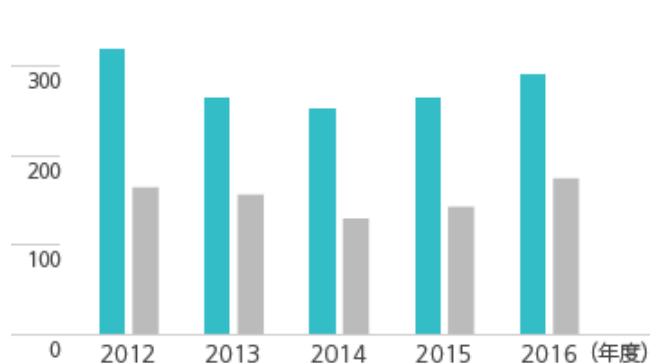
### 売上高

(億円)



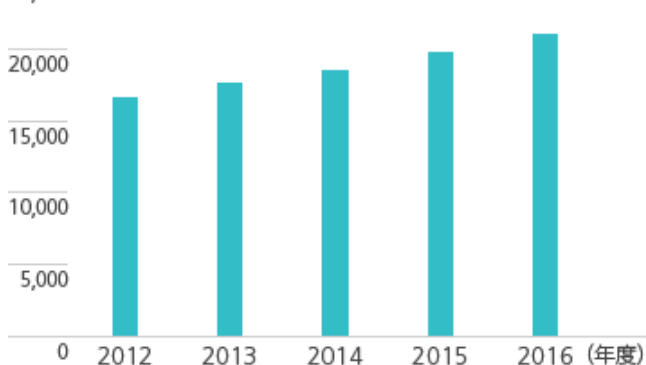
### 経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

(億円)



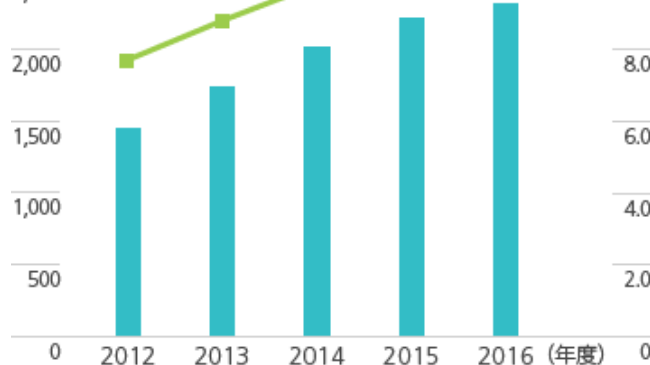
### 総資産

(億円)



### 純資産 自己資本比率

(億円)



(単位:百万円)

	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
売上高	421,491	442,557	441,691	472,262	493,704
営業利益	28,654	24,786	23,174	24,517	24,420
経常利益	32,092	26,434	25,381	26,474	29,187
親会社株主に帰属する 当期純利益	16,489	15,647	12,981	14,203	17,464
総資産	1,668,631	1,764,310	1,851,925	1,987,610	2,113,373
純資産	144,773	173,752	202,636	222,501	232,531
自己資本比率	7.7%	8.8%	9.8%	10.1%	9.8%

当該ページについての詳細はこちらをご覧ください。

# 事業概要



**各種の金融機能を駆使して、設備投資をサポート。  
お客様の視点に立った最適なソリューションを提案しています。**

リース(LEASE)とは、広義には賃貸借を意味しますが、リース会社を取り扱っているリースは「お客様が必要とする機械や設備をお客様に代ってリース会社が購入し、比較的長期にわたり一定のリース料でお客様にその物件を賃貸する取引」をいいます。

芙蓉リースでは、このリースによってOA機器から船舶・航空機に至るまで幅広い物件を提供しています。また、税務面でリースに適さない一部の物件や、お客様が所有を希望される物件については、割賦販売やファイナンス(融資)など、さまざまな金融機能を使ってお客様をサポートしています。

これらサービスの提供にあたっては、お客様の課題やニーズにとことん向き合い、既存の枠組みにとらわれることなく柔軟に対応することで、お客様の視点に立った最適なソリューションを提案しています。

## 環境先進企業を めざして



サンデンフォレスト「生物多様性」研修／野外散策

芙蓉リースグループでは、「リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する」という経営理念のもと、環境配慮型商品やサービスの提案と事業活動における環境負荷の低減を積極的に推進し、「環境先進企業」への進化に挑戦しています。

### 環境リスク管理

廃棄物の処理に関する法令の遵守はもとより、リース満了物件の処分委託先への現地調査などを実施し、廃棄物処理に関わる環境リスクの低減を進めています。

#### リース満了物件の廃棄処理を適正に実施

芙蓉リースでは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(廃棄物処理法)などの法令を遵守し、再利用することができないリース満了物件を適正に廃棄しています。

また、処分委託先の処理方法やリサイクルの取り組みなどを確認する調査を計画的に実施するとともに、マニフェスト(産業廃棄物管理票)※の管理・運用を徹底しています。

※ マニフェスト: 廃棄物の処理が適正に実施されたかを確認するための書類または電子データ。排出事業者には、廃棄物処理法に基づき、マニフェストを交付・回収または登録して廃棄物が適正に処理されたかを確認する義務が課せられています。

詳しくは、芙蓉リースが事務処理を委託しているグループ会社／芙蓉リース販売の[廃棄物の適正処理](#)をご覧ください。

## 自社の省エネ・省資源、情報公開、社員の環境意識

最新IT機器の導入による省エネ・省資源活動や環境会計に基づく環境情報の公開、さらには社員一人ひとりの環境意識を高め、自発的な取り組みを促す活動を積極的に進めています。

### 環境教育を推進

#### サンデンフォレストで「生物多様性」を学ぶ

芙蓉リースでは、環境教育の一環として、新入社員研修に「生物多様性」を学ぶ体験学習を2013年度から導入しています。カーエアコンのコンプレッサーにおいて世界シェア25%のサンデン株式会社の全面的な協力を得て、2013年は19名、2014年は20名、2015年は30名、2016年も30名の新入社員が、いずれも5月に「サンデンフォレスト・赤城事業所」を見学。リース会社の社員が、日頃体感する機会の少ない「生物多様性」について学びました。



サンデンフォレストは、「環境と産業の矛盾なき共存」というコンセプトのもと、民間初の大規模な「近自然工法※」を導入して、2002年に群馬県赤城山麓に開設された事業所です。東京ドームの15倍に及ぶ敷地の半分が森林として整備され、継続的な調査によって生物多様性の改善が確認されています。研修では、同事業所の生産工程における各種の環境対策を見学した後、周辺の森やビオトープを散策。サンデン株式会社の先進的な「環境への取り組み」を実地で学んだ本研修は、新入社員にとって「環境に配慮した事業活動の重要性を認識する」貴重な体験となっています。

※ 近自然工法：自然本来の回復力で生態系を復元できるよう、人間の手でその最初の段階をつくりあげる工法のこと



サンデンフォレスト・赤城事業所

### 電子会議システムでオフィスのペーパーレス化を推進

芙蓉リースでは、業務の効率化と環境負荷の低減をめざして、大型ディスプレイを使用した電子会議システム「テレオフィス」を導入しています。

このシステムは、会議資料やホワイトボードに書かれた内容を手元の端末でリアルタイムに共有でき、タッチペンで追記・削除することも可能なため、会議のペーパーレス化を推進できます。また、遠隔地の支店との活発な議論とスピーディーな意思決定をサポートするさまざまな機能を備えており、出張回数の削減によるCO<sub>2</sub>排出量の削減も図れます。

また、大型のタッチディスプレイ「BIG PAD」を芙蓉リースの本支店で導入してさまざまな会議で活用。さらなるペーパーレス化を促進しています。



「テレオフィス」を使ったペーパーレス会議



ISO14001更新審査で活用した「BIG PAD」



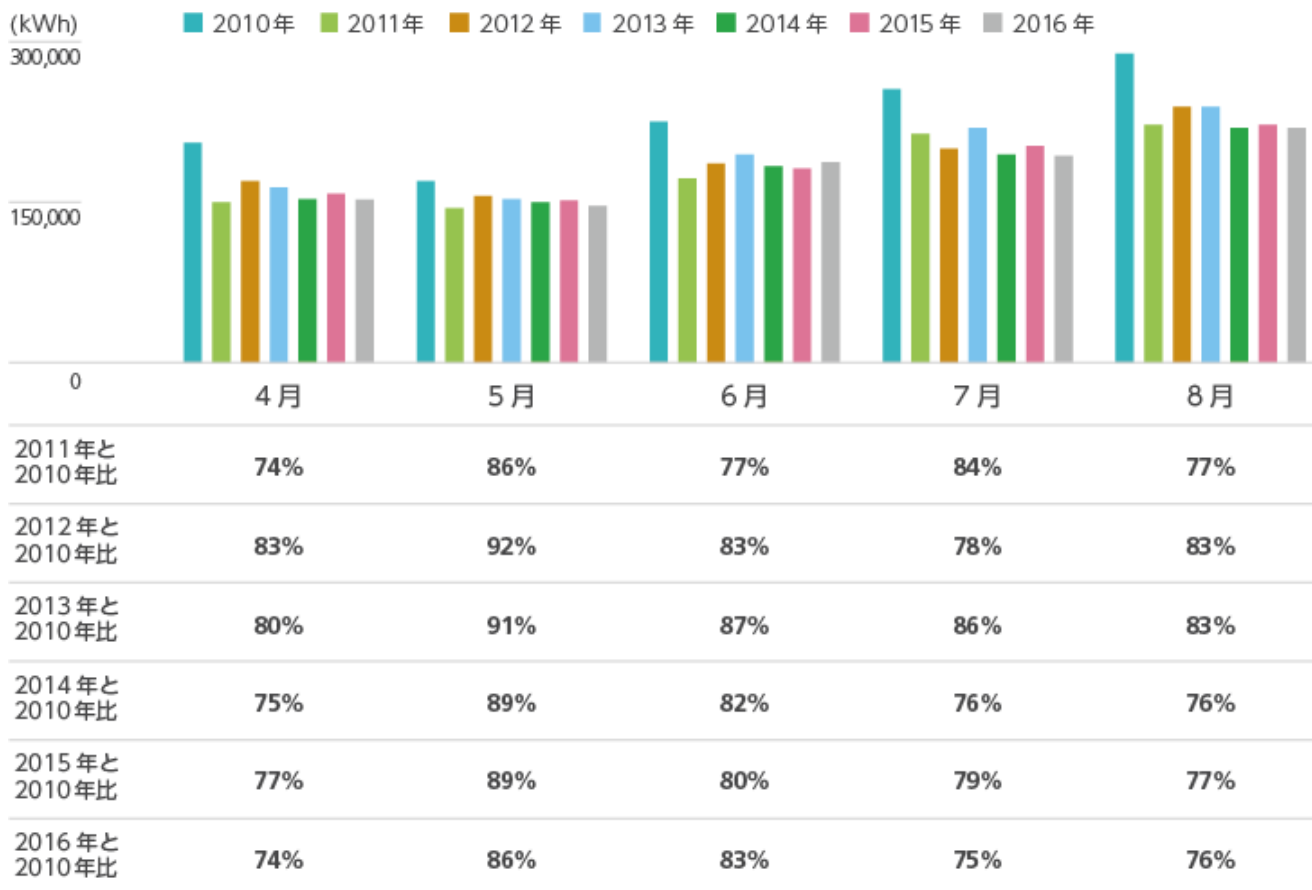
## オフィスを中心に節電対策を徹底

芙蓉リースは、従来から、使用していない会議室・トイレの消灯や30分以上離席する場合のPC電源のオフなど、さまざまな節電活動に取り組んできました。

東日本大震災の発生以降は、その取り組みをいっそう強化し、夏季の空調温度の管理(28℃以上)やオフィス照明の2分の1間引きを全社で徹底しています。2013年度以降は「クールビス」期間を拡大し、毎年5月1日から10月末まで実施しています。また、18時までの退社を推奨する「夏季ノー残業期間」も実施しています。

2016年度も、これらの節電活動を引き続き実施しました。

### ■ 芙蓉リースグループ※の夏季における電気使用量の推移



※ 芙蓉リース本支店およびグループ5社(芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネット)の使用量の合計

## 環境会計制度を導入して活動の成果を公開

芙蓉リースグループは、自らの環境パフォーマンスの向上を図るだけでなく、お客様の環境パフォーマンスの向上に役立つサービスの提案に力を入れています。

また、そうした環境活動の成果を定量的に評価するとともに、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様へ評価結果をわかりやすく報告するため、**環境会計**※1を導入しています。

2015年度は、自らのCO<sub>2</sub>排出量の抑制に加え、環境配慮型物件のリースや再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンスの推進が奏功し、お客様のCO<sub>2</sub>排出削減への貢献(当社試算)では前年度に上乗せする成果が上がりました。

なお、当社は2015年度も前年度に続き5年連続で株式会社日本政策投資銀行の「DBJ環境格付※2」で最高ランクの格付を取得しました。中期経営計画と連動したCSR活動の数値目標を掲げ着実な成果を上げていること、そのための人材育成に注力していることなどが評価されたもので、堅確な管理体制で3Rを推進していることも大きな評価ポイントとなりました。



当社は2016年3月に日本政策投資銀行(DBJ)より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価されました。



今後も環境活動を強化し、その成果を積極的に開示していきます。

※1 環境会計：環境会計とは、企業などが、事業活動で環境保全に投じたコストと、その活動によって得られた効果を認識し、できる限り定量的に測定、伝達する仕組みです。

※2 DBJ環境格付：株式会社日本政策投資銀行が開発した格付システムで、企業の環境経営度を評点化して採点します。採点に応じて、同行から優遇金利で融資を受けることができます。

# 環境理念／環境方針

---

## 環境理念

---

芙蓉リースグループは、「リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する。」という経営理念に基づき、地球環境の保全に配慮して行動し、環境方針に沿って環境問題への取り組みを推進していきます。

## 環境方針

---

### 1. リース事業を通じた地球環境保護

リース、レンタル、金融などの事業活動において地球環境保護に寄与する商品・サービスの提供に努めます。

### 2. 省資源・省エネルギー活動の推進

事業活動に伴う環境負荷を認識し、省資源・省エネルギー活動およびグリーン購入に努めます。

### 3. 循環型社会構築への寄与

リース終了物件などに対するリユース、リサイクルを推進し、廃棄物の発生抑制と適正処分に努めます。

### 4. 環境関連法令などの順守

環境に関する法令や、芙蓉リースグループが同意した協定などを順守します。

### 5. 環境マネジメントシステムの確立

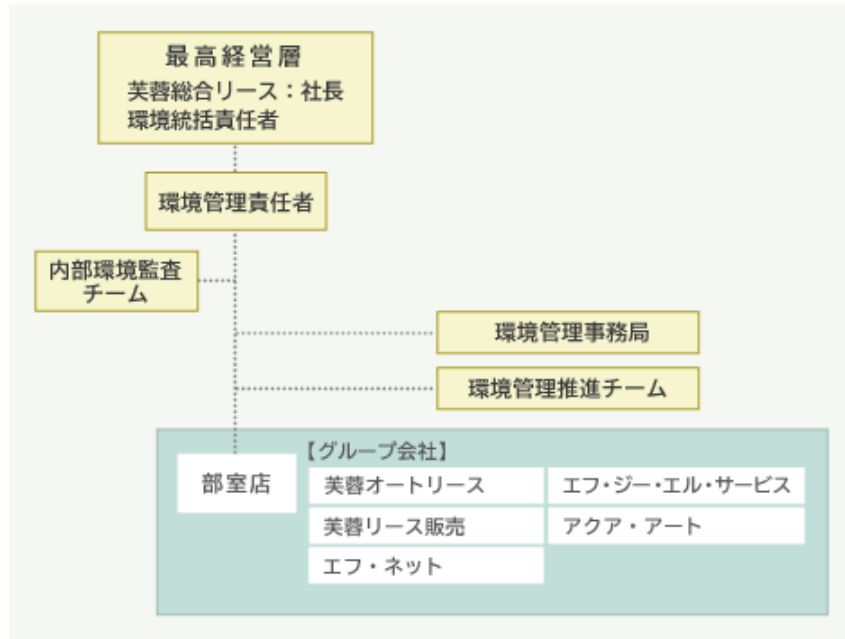
環境マネジメントシステムの継続的な改善を図り、環境目標を設定して環境汚染の予防に努めます。

# 環境マネジメント

## 環境マネジメントシステム

芙蓉リースグループでは、芙蓉総合リースの社長を最高責任者、コーポレートコミュニケーション室担当役員を環境統括責任者とし、グループ会社も含めた環境マネジメントシステム体制を構築しています。

### ■ 環境マネジメントシステム体制



## ISO14001 認証取得

芙蓉リースとグループ会社では、2006年7月に主な事業所でISO14001 [▼用語解説](#) の認証を取得し、2015年6月には、3度目の更新審査に合格しました。

現在の認証範囲は下記のとおりです。今後も、環境配慮型経営を実現するため、環境マネジメントシステムの確実な運用に努めていきます。

## ISO14001 認証取得範囲

- 芙蓉総合リース 本社、大阪支店(リース業、割賦販売、融資その他の金融サービス業務、生命保険の募集業務)
- 芙蓉リース販売 本社、東京3Rセンター(再リース契約代行処理、リース終了物件の売却・廃棄業務代行)
- エフ・ネット 本社、深川テクニカルセンター(電子計算機・ソフトウェア・通信機器の販売)
- エフ・ジー・エル・サービス(損害保険代理業、営業事務の受託、総務・庶務事務の受託)



ISO14001 マネジメントシステム登録証



付属書1

## 内部環境監査・外部審査

芙蓉リースグループは、内部環境監査や外部審査などを活用し、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めています。

### 内部環境監査

従来は、毎年全ての部室店・グループ会社に対して内部環境監査を実施してきましたが、環境マネジメントシステムがグループ全社に浸透してきたことから、2012年度以降は、約半数にあたる部室店・グループ会社に対して、年度交代で内部環境監査を実施しています。

また、2015年度からは該当年度に外部審査を受けた部署の内部環境監査は省略しています。

### 内部環境監査

		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
被監査部署	本社部室	38部室	20部室	19部室	19部室	9部室
	支店	21支店	11支店	3支店	—	—
	グループ会社	6社	3社	3社	1社	0社
重大な不適合		0件	0件	0件	0件	0件
軽微な不適合		1件	1件	0件	0件	0件
改善の機会※		14件	3件	0件	0件	0件
優良事項		45件	22件	2件	5件	2件

※ 改善の機会: 今後、良くするためのアドバイス

## 外部審査

2016年6月に、ISO14001の外部審査を受けました。審査結果やご指導いただいた点を参考に、今後も継続的な改善に取り組んでいきます。

### 外部審査の結果

審査結果	2012年6月	2013年7月	2014年6月	2015年6月	2016年6月
ストロングポイント	1件	3件	2件	1件	0件
グットポイント	5件	5件	4件	6件	2件
改善の機会※	6件	4件	0件	3件	2件
改善指摘事項	0件	0件	0件	0件	0件

※ 改善の機会: 今後、良くするためのアドバイス

## 環境教育

芙蓉リースグループでは、環境マネジメントシステムに対する理解や環境関連の知識・技能の向上を図るために、環境教育を定期的に行っています。

2015年度の実施状況は下表のとおりです。

### 環境教育の実施状況

#### 環境教育の実施状況(2015年度)

	名称	実施時期	参加人数
社員研修	環境eラーニング	2015年4月～2015年5月	922名
	東京3Rセンター研修	2015年10月	30名
	サンデンフォレスト生物多様性研修	2015年5月	新入社員30名

2015年度は、全社員を対象にした環境eラーニングで、最新の環境関連情報や環境法令などの知識向上を図ったほか、新入社員と希望者を対象に東京3Rセンター研修を計3回実施し、リース満了物件に対する3R実践現場の見学を通して当社グループの環境対策への理解向上を図りました。

また、芙蓉リースでは、2013年度から環境教育の一環として、新入社員研修に「生物多様性」を学ぶ体験学習を新たに導入しました。

[詳しくはこちらをご覧ください。](#)



東京3Rセンター研修

### eco検定の受験奨励

芙蓉リースグループでは、社員の環境意識を高めるために、環境社会検定試験(eco検定)の受験を奨励しています。

2015年度の合格者は5名で、2016年3月末時点の合格者総数は193名になりました※。

※ 連結子会社のシャープファイナンスでは、上記とは別に80名が合格しています。



## 環境関連法令の順守

点検結果	件数
法令違反	0件
環境に関する苦情	0件

芙蓉リースグループは、各種の環境教育活動などを通じて、すべての役員・社員に環境関連法令を順守するよう徹底しています。

また、環境関連法令の順守状況を点検する環境関連法令のコンプライアンスチェックを定期的に行っています。

2015年度は、2016年2月に2015年2月～2016年1月までの順守状況を点検し、「法令違反」「環境に関する苦情」ともに該当する事例がないことを確認しました。

なお、過年度においても「環境法令違反」と「環境に関する苦情」は0件です。

### 用語解説

#### ISO14001

ISO14001とは国際標準化機構(International Organization for Standardization)が定めた環境マネジメントシステムの仕様に関する世界標準の規格です。

国際標準化機構は、国際規格を作成する民間団体で、スイスに本部があります。

# 環境会計

## 自らの環境保全対策に関する環境会計<sup>※1</sup>

芙蓉リースグループの環境保全の取り組みを評価するため、基本的に環境省の「環境会計ガイドライン」の考え方に従い、取り組みごとに環境保全コストや環境保全効果を把握しています。

— : 該当データはありません

□ : 当環境会計では計上していません

### ■ 2015年度

取り組み内容	環境目的	環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果 (万円)	
		投資 (万円)	費用 (万円)	CO2排出削減量 (ton-CO2) <sup>※2</sup>	廃棄物排出削減量 (ton)		
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	□	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	66	-	173
			グリーン電力の購入	□	0	-	□
	コピー・プリント用紙使用量の削減	□	□	-	-0.4	-65	
	社用車の燃料消費・排ガスの削減	□	52.4	5	-	350	
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築	□	15,749 <sup>※3</sup>	-	237 <sup>※4</sup>	49,984	
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大	□	2,858	□	□	□	
	環境教育の定期的実施	□		□	□		
	CSR報告書等による環境活動情報の発表	□	□	□	□		
	地域の環境教育に貢献 <sup>※5</sup>	□	1,247	□	□	□	
<b>合計</b>		0	19,907	71	236	50,442	

■ 2014年度

取り組み内容	環境目的		環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果 (万円)
			投資 (万円)	費用 (万円)	CO <sub>2</sub> 排出削減量 (ton-CO <sub>2</sub> ) <sup>※2</sup>	廃棄物排出削減量 (ton)	
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	0	89	-	131
		グリーン電力の購入		0	0	-	
	コピー・プリント用紙使用量の削減				-	2.8	2
	社用車の燃料消費・排ガスの削減			0.9	33	-	204
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築			18,015 <sup>※3</sup>	-	293 <sup>※4</sup>	51,810
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大			2,852			
	環境教育の定期的実施						
	CSR報告書等による環境活動情報の発表						
	地域の環境教育に貢献 <sup>※5</sup>			680			
合計			0	21,548	122	296	52,147

■ 2013年度

取り組み内容	環境目的		環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果 (万円)
			投資 (万円)	費用 (万円)	CO <sub>2</sub> 排出削減量 (ton-CO <sub>2</sub> ) <sup>※2</sup>	廃棄物排出削減量 (ton)	
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	0	-140	-	-99
		グリーン電力の購入		0	0	-	
	コピー・プリント用紙使用量の削減				-	0.7	-25
	社用車の燃料消費・排ガスの削減			52.9	10	-	1
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築			19,449 <sup>※3</sup>	-	270 <sup>※4</sup>	42,211
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大			2,892			
	環境教育の定期的実施						
	CSR報告書等による環境活動情報の発表						
	地域の環境教育に貢献 <sup>※5</sup>			567			
合計			0	22,961	-130	270	42,088

■ 2012年度

取り組み内容	環境目的		環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果 (万円)
			投資 (万円)	費用 (万円)	CO <sub>2</sub> 排出削減量 (ton-CO <sub>2</sub> ) <sup>※2</sup>	廃棄物排出削減量 (ton)	
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	0	-194	-	9
		グリーン電力の購入		0	0	-	
	コピー・プリント用紙使用量の削減				-	-0.7	310
	社用車の燃料消費・排ガスの削減			53.2	11	-	6
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築			19,585 <sup>※3</sup>	-	277 <sup>※4</sup>	37,436
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大			2,665			
	環境教育の定期的実施						
	CSR報告書等による環境活動情報の発表						
	地域の環境教育に貢献 <sup>※5</sup>			491			
合計			0	22,795	-183	277	37,761

■ 2011年度

取り組み内容	環境目的		環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果 (万円)
			投資 (万円)	費用 (万円)	CO <sub>2</sub> 排出削減量 (ton-CO <sub>2</sub> ) <sup>※2</sup>	廃棄物排出削減量 (ton)	
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	0	115	-	587
		グリーン電力の購入		0	0	-	
	コピー・プリント用紙使用量の削減				-	1.4	25
	社用車の燃料消費・排ガスの削減			139.2	21	-	11
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築			17,000 <sup>※3</sup>	-	289 <sup>※4</sup>	37,677
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大			3,752			
	環境教育の定期的実施						
	CSR報告書等による環境活動情報の発表						
	地域の環境教育に貢献 <sup>※5</sup>			491			
合計			0	21,383	136	291	38,300

※1 対象範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネットの国内全事業所です。

※2 CO<sub>2</sub>排出削減量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定しています。(電気については各年度の電気事業者別の実排出係数を用いて算定。)

※3 リユース、リサイクルに関わる経費と産業廃棄物処理業者の管理に関わる経費です。

※4 PCおよびTFT液晶のリユース、リサイクルによる効果です。

※5 インテリア水槽「AQUA ART」を、環境教育用として地元幼稚園などに寄贈(無償レンタル)するために要した費用です。

## リース事業を通じた地球環境保護に関する環境会計

芙蓉リースグループは、本業であるリース事業において地球環境保全に貢献するビジネスを行っており、これらの社会的な効果（お客様が享受する効果）を芙蓉リースグループ独自の算出方法によって試算しています。

— : 該当データはありません

□ : 当環境会計では計上していません

### ■ 2015年度

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供※1	環境関連商品・サービスのご提供によってお客様が削減できるCO2など(推計)※4	
				CO2排出削減量 (ton-CO2/年)※5	廃棄物排出削減量 (ton)
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得推進	環境配慮型物件※2	34億円	29,592	
		エコカー※3	5,360台	7,167	
	PG Eco & Valueリース契約などの成約推進		39,775台		230※6
	再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進		25億円	13,927	
合計				50,686	230

### ■ 2014年度

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供※1	環境関連商品・サービスのご提供によってお客様が削減できるCO2など(推計)※4	
				CO2排出削減量 (ton-CO2/年)※5	廃棄物排出削減量 (ton)
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得推進	環境配慮型物件※2	23億円	22,056	
		エコカー※3	4,747台	6,352	
	PG Eco & Valueリース契約などの成約推進		50,640台		348※6
	再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進		16億円	8,756	
合計				37,164	348

### ■ 2013年度

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供※1	環境関連商品・サービスのご提供によってお客様が削減できるCO2など(推計)※4	
				CO2排出削減量 (ton-CO2/年)※5	廃棄物排出削減量 (ton)
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得推進	環境配慮型物件※2	35億円	33,878	
		エコカー※3	6,072台	7,979	
	PG Eco & Valueリース契約などの成約推進		82,570台		458※6
	再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進		11億円	6,219	
合計				48,076	458



■ 2012年度

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供※1	環境関連商品・サービスのご提供によってお客さまが削減できるCO2など(推計)※4	
				CO2排出削減量 (ton-CO2/年)※5	廃棄物排出削減量 (ton)
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得 推進	環境配慮型物件 ※2	21億円	9,485	
		エコカー※3	7,289台	9,438	
	PC Eco & Valueリース契約などの成約推進		47,222台		306※6
	再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進		0億円	8	
合計				18,931	306

■ 2011年度

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供※1	環境関連商品・サービスのご提供によってお客さまが削減できるCO2など(推計)※4	
				CO2排出削減量 (ton-CO2/年)※5	廃棄物排出削減量 (ton)
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得 推進	環境配慮型物件 ※2	22億円	6,237	
		エコカー※3	6,293台	8,167	
	PC Eco & Valueリース契約などの成約推進		48,674台		342※6
	再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進		0億円	0	
合計				14,403	342

※1 2011年度～2015年度に契約した契約金額、台数などを掲載しています。

※2 芙蓉総合リースを対象としています。芙蓉総合リースが環境配慮物件と定義している物件のうち、コージェネ、省電力設備、空調機器について効果を算出しています。

※3 芙蓉オートリースを対象としています。芙蓉オートリースがエコカーとして定義している物件のうち、低排出ガス車、ハイブリッド車、LPG車、電気自動車などについて効果を算出しています。

※4 一般的な設備などの価格とその効果との関係を利用して試算した効果であり、実際の効果とは異なります。

※5 環境配慮型物件(またはプロジェクト)によってお客様が1年間に削減できるCO2排出量です。次年度以降もそのリース物件(またはプロジェクト)を継続する場合、前年度と同等の効果が続きます。

※6 2011年度～2015年度に成約したPCがすべてリユースされた場合の効果です。

# 芙蓉リースグループの主な環境目標 (2015年度実績と2016年度目標)

芙蓉リースグループは環境目標の達成に向けて取り組んでいます。

評価: 目標を達成した場合は○、達成できなかった場合は×

環境方針	会社名	環境目的	2015年度 目標	2015年度 実績	評価	2016年度 目標
地球温暖化対策 (省資源・省エネルギー活動の推進)	芙蓉総合リース、 エフ・ジー・エル・ サービス	リース事業協会の地球温暖化自主行動計画に参加	リース業における「低炭素社会実行計画」に参加 2020年度において、芙蓉総合リースの本社床面積当りの電気消費量を基準年度(2009年度)対比で10%削減する。	2009年度比 49.7%減	○	リース業における「低炭素社会実行計画」に参加 2030年度において、芙蓉総合リースの本社床面積当りの電気消費量を基準年度(2009年度)対比で20%削減する。
	グループ全社※1	温室効果ガスの排出量の削減	2010年度水準※2を維持(t-CO <sub>2</sub> )	2010年度比1.3%減	○	2010年度水準を維持(t-CO <sub>2</sub> )
1. リース事業を通じた地球環境保護	芙蓉総合リース	環境配慮型物件の取得推進	90億円	264億円	○	100億円
	芙蓉総合リース	PC Eco & Value リース・PCレンタル契約の成約推進	50億円	55億円	○	50億円
	芙蓉総合リース	環境関連商品・サービスの提案	2,100件	1,908件	×	2,300件
2. 省資源・省エネルギー活動の推進	グループ全社	電気使用量の削減	2010年度水準を維持(kwh)	2010年度比 19.6%減 夏場(4~8月)は、2010年度比 20.4%減	○	2010年度水準を維持(kwh)
	グループ全社	コピー用紙使用量の削減	2010年度水準を維持(購入枚数で測定)	2010年度比7.4%減	○	2010年度水準を維持(購入枚数で測定)
	芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、アクア・アート	営業車燃料使用量の削減	2010年度水準を維持(ℓ)	2010年度比 34.8%減	○	2010年度水準を維持(ℓ)
	グループ全社	グリーン文具購入の推進	2010年度水準を維持(%)	2010年度比2.4%向上	○	2010年度水準を維持(%)
3. 循環型社会構築への寄与	芙蓉リース販売	3Rの推進	60,000件	71,073件	○	100,000件
4. 環境関連法令などの順守	グループ全社	環境関連法令などの順守	環境関連法令などの順守評価を実施	順守評価を実施、違反・問題点なし	○	環境関連法令などの順守評価を実施
5. 環境マネジメントシステムの確立	グループ全社	ISO14001の認証の維持	ISO14001の認証を維持する	2015年6月、ISO14001審査に合格、認証維持	○	ISO14001の認証を維持する
	グループ全社	CSR報告書を作成し、外部コミュニケーションを実施	第10回目のCSR報告(冊子、Web)を発表する 外部コミュニケーションを実施する	2015年9月発表 外部コミュニケーション実施	○	第11回目のCSR報告(冊子、Web)を発表する 外部コミュニケーションを実施する

※1 グループ全社の範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネットの国内全事業所です。

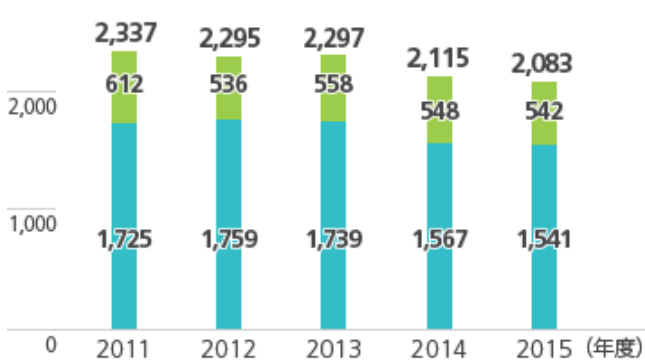
※2 芙蓉リースグループのCO<sub>2</sub>排出量は、グループで測定をはじめた2007年度に比して、2010年度実績が既に18%減になっています。

# 環境パフォーマンス

## エネルギー / CO<sub>2</sub>※<sup>1</sup>

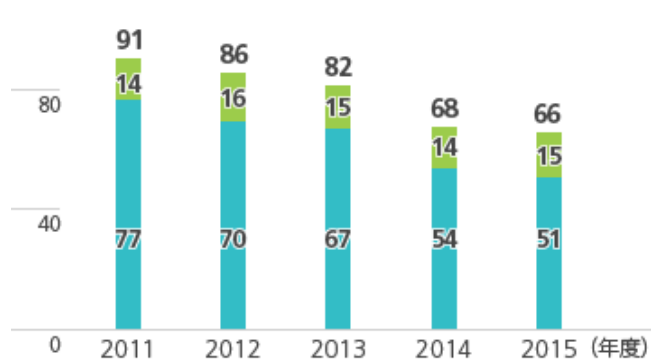
### ■ 電力使用量

(千 kWh) ■ 芙蓉リース ■ グループ会社計



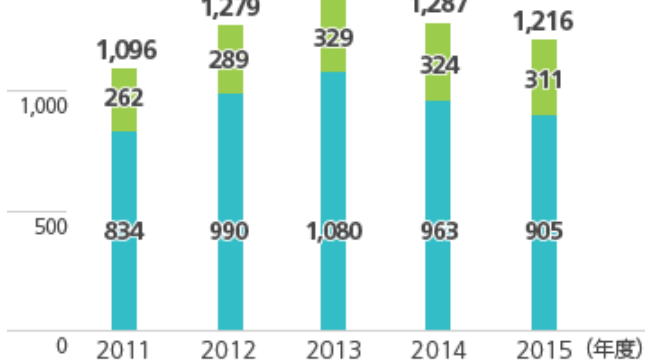
### ■ 営業車燃料使用量

(千 ℓ) ■ 芙蓉リース ■ グループ会社計



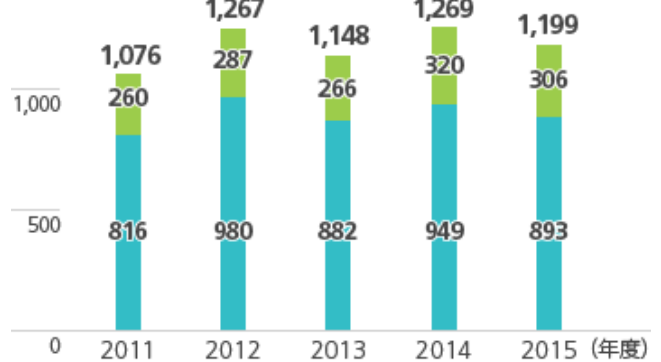
### ■ CO<sub>2</sub>実排出量※<sup>2</sup> (スコープ1, 2)

(t-CO<sub>2</sub>) ■ 芙蓉リース ■ グループ会社計



### ■ CO<sub>2</sub>調整後排出量※<sup>3</sup> (スコープ1, 2)

(t-CO<sub>2</sub>) ■ 芙蓉リース ■ グループ会社計



### ■ CO<sub>2</sub>排出量(スコープ1、2、3)

	CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> )			CO <sub>2</sub> 総排出量に対する比率 (2015年度)
	2013年度	2014年度	2015年度	
スコープ1	192	159	154	0.011%
スコープ2	1,217	1,128	1,062	0.075%
スコープ3	1,246,345	1,243,298	1,420,896	99.914%
<b>CO<sub>2</sub>総排出量</b>	<b>1,247,754</b>	<b>1,244,585</b>	<b>1,422,112</b>	<b>100%</b>

■ CO2排出量(スコープ3の内訳)

カテゴリー	CO2排出量(t-CO2)			CO2総排出量に対する比率 (2015年度)	算定方法/備考
	2013年度	2014年度	2015年度		
1. 購入した製品・サービス	-	-	-		取扱い製品が多岐にわたるため製品ごとの金額の把握が困難であること、および排出量削減への影響力を及ぼすことも困難であることから、現状は算定範囲から除外しています。 ただし、リースに係る製品購入はすべて「2. 資本財」に算入しています。
2. 資本財	1,245,386	1,242,316	1,420,000	99.937%	(購入金額×原単位)+(リース契約実行高×原単位※)
3. スコープ1、2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	110	98	96	0.007%	スコープ1、2排出量算定における電力および化石燃料使用量×原単位※
4. 輸送、配送(上流)	-	-	-		メーカーから顧客までの輸送形態はメーカーからの直接配送のため把握が困難であること、および排出量削減への影響力を及ぼすことも困難であることから、現状は算定範囲から除外しています。
5. 事業から出る廃棄物	285	312	225	0.016%	処理方法別の排出量×原単位※
6. 出張	198	201	203	0.014%	従業員数×原単位※
7. 雇用者の通勤	366	371	372	0.026%	都市区分別従業員数×営業日数×原単位※
8. リース資産(上流)	該当せず	該当せず	該当せず	-	借りているオフィスのエネルギー使用はスコープ1、2に算入しています。
9. 輸送、配送(下流)	該当せず	該当せず	該当せず	-	輸送費を負担していない物流はないため該当する排出はありません。
10. 販売した製品の加工	該当せず	該当せず	該当せず	-	中間製品の取扱いはないため該当する排出はありません。
11. 販売した製品の使用	-	-	-		取扱い製品が多岐にわたるため製品ごとの販売先での使用状況は把握が困難であり、現状は算定範囲から除外しています。
12. 販売した製品の廃棄	-	-	-		取扱い製品が多岐にわたるため製品ごとの販売先での廃棄状況は把握が困難であり、現状は算定範囲から除外しています。
13. リース資産(下流)	-	-	-		取扱い製品が多岐にわたるため製品ごとのリース先での使用状況は把握が困難であり、現状は算定範囲から除外しています。
14. フランチャイズ	該当せず	該当せず	該当せず	-	フランチャイズはないため該当する排出はありません。
15. 投資	-	-	-		投資部門別の金額の把握が困難であることから、現状は算定範囲から除外しています。
<b>CO2総排出量</b>	<b>1,246,345</b>	<b>1,243,298</b>	<b>1,420,896</b>	<b>100%</b>	※原単位:環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.3)」、カテゴリー3のガソリンについては「カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム 基本データベースver.1.01(国内データ)」

スコープ3は、「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(環境省、経済産業省)」に基づき、算定可能なカテゴリーについて算定しています。

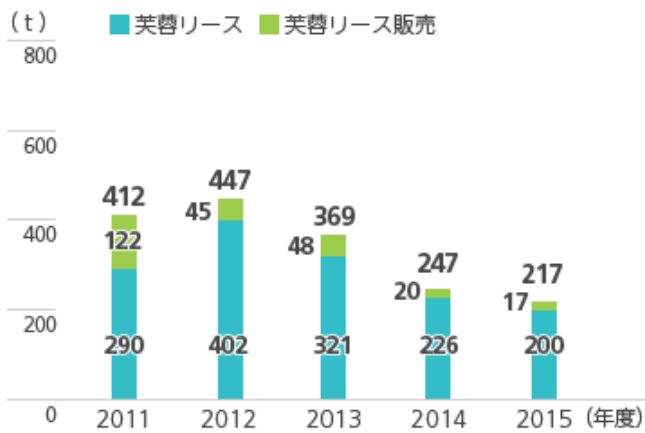
※1 対象範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネットの国内全事業所。

※2 CO2実排出量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定。(電気については各年度の電気事業者別の実排出係数を用いて算定。)ただし、芙蓉リース、およびグループ各社は、特定排出者には該当しません。  
なお、2012年度以降は電気事業者の排出係数が大きくなったため、電気使用量が減少・横這い状態にもかかわらず、CO2排出量が増加しています。

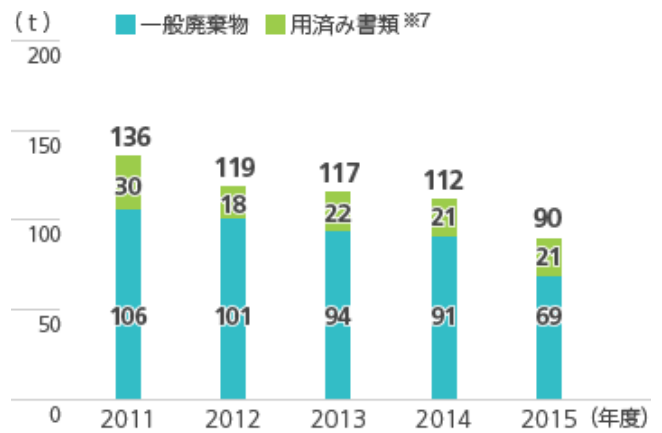
※3 CO2調整後排出量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定。(電気については各年度の電気事業者別の調整後排出係数を用いて算定。)

## 廃棄物

### ■ 産業廃棄物の発生※4※5



### ■ 一般ごみの発生※6



※4 対象範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉リース販売の国内全事業所。

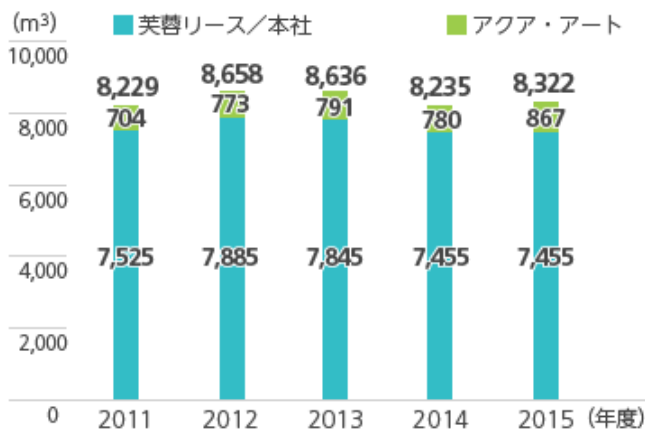
※5 産業廃棄物は、排出量の98%以上がリサイクルされています。

※6 対象範囲は、芙蓉総合リース／本社（エフ・ジー・エル・サービスを含む）。

※7 用済み書類は、溶解処理の後、全量がリサイクルされています。

## 水の消費※8

### ■ 水の消費

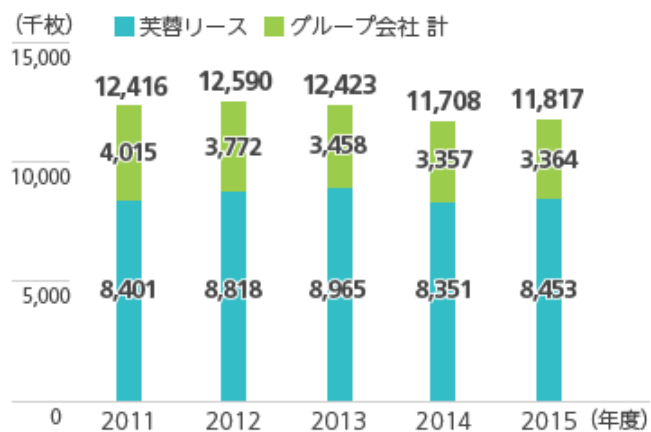


※8 対象範囲は、芙蓉総合リース／本社（エフ・ジー・エル・サービスを含む）とアクア・アート。

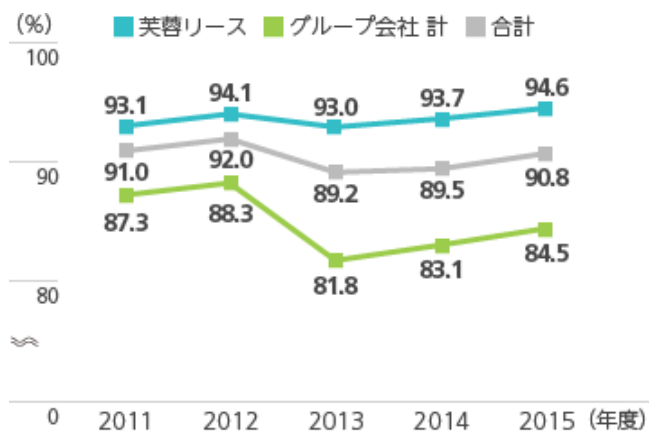


## オフィス用品<sup>※9</sup>

### ■ コピー用紙購入量



### ■ グリーン文具購入比率



※9 対象範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネットの国内全事業所。

# 環境配慮型商品・サービスの一覧

---

## 環境に配慮した商品・サービス

---

リースやファイナンスを通じて、省エネの実現に向けた設備投資をサポートします。各種補助金制度の活用やサプライヤーの紹介など、芙蓉リースならではのバックアップ体制も充実しています。

### 省エネ設備／補助金リース

リースを使った省エネルギー対策を提供しています。 [詳しくはこちら](#)

### ESCO事業

ESCO事業者として省エネルギー活動をトータルにサポートしています。 [詳しくはこちら](#)

### 再生可能エネルギー事業者向けファイナンス

再生可能エネルギー分野において各種ファイナンスサービスを提供しています。 [詳しくはこちら](#)

## 3Rを推進し環境に貢献するサービス

---

3R(リデュース、リユース、リサイクル)を通じて循環型社会の構築に寄与するとともに、お客様に経済的なメリットも提供します。

リースアップしたパソコンなどのリユースはもちろん、お客様が保有する中古資産の買い取りなど、さまざまなサービスを提供しています。

### PC Eco & Valueリース

エコノミー&エコロジーを追求したパソコンのリースをご提供しています。 [詳しくはこちら](#)

### PCレンタル

目まぐるしいパソコンの技術革新に柔軟に対応するレンタルシステムを提供しています。 [詳しくはこちら](#)

### 中古パソコン買取サービス

中古パソコンの買い取りを行っています。 [詳しくはこちら](#)

### 中古資産買取サービス

不要設備・遊休資産の買い取りを行っています。 [詳しくはこちら](#)

芙蓉総合リースグループすべての「商品・サービス一覧」は[こちら](#)をご覧ください。

# お客様満足度の向上

---

## お客様満足度向上のために

---

芙蓉リースグループでは、「顧客第一主義に徹し、最高のサービスを提供する」という経営理念を掲げ、お客様の多様なニーズに柔軟かつ迅速に対応できるサービスの提供に努めています。

## お客様の事務効率向上に貢献するデータサービス「FLOW」を提供

---

芙蓉リースでは、お客様に付加価値を提供するサービスのひとつとして、Webサイト上でリース契約管理ができる独自のデータサービス「FLOW」を提供しています。

「FLOW」は、契約情報や会計参考資料をWeb上で照会・ダウンロードできるため、事務の効率化が図れるメリットがあります。



リース物件はリース会社の資産ですが、お客様のオフィスや店舗、工場などに設置され、お客様が所有している資産と同様に使用・管理されています。

そこで、お客様の現物管理全般をお手伝いする クラウド型資産管理サービス「FLOW-Cube」も、「FLOW」のオプションとして提供しています。

バーコードやモバイル端末の活用など、お客様のニーズに合わせてサービスを強化しています。

[FLOW 芙蓉総合リースWebサービス](#)

[FLOW-Cube](#)

## 金融ADR制度への対応

---

金融トラブルの迅速・柔軟・簡便な解決をめざす「金融ADR制度（金融分野における裁判外紛争解決制度）」が2010年4月に創設され、一定の金融サービスを提供する業者に対して、指定紛争解決機関がある場合にはその機関との間で手続実施基本契約を締結し、指定紛争解決機関がない場合には苦情処理・紛争解決措置を講ずることが義務づけられました。

当社は、貸金業に関して、指定紛争解決機関との間で手続実施基本契約を締結し、指定紛争解決機関がない第二種金融商品取引業に関して、苦情処理・紛争解決措置を講じています。

[詳しくはこちらをご覧ください。](#)

## 情報セキュリティ(ISO27001認証の取得)

### お客様情報の管理

芙蓉リースグループでは、情報管理体制を構築し、お客様の情報を厳格に管理しています。

情報セキュリティ強化の一環として、次の部署およびグループ会社で、情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格である「ISO27001 [▼用語解説](#)」の認証を取得しています。

- 芙蓉リース 公共法人室
- エフ・ネット 本社および深川テクニカルセンター
- 芙蓉リース販売 東京3Rセンター

詳しくはこちらをご覧ください。



IS561675/ISO27001  
【認証登録範囲】  
第三営業部公共法人室による  
公共法人およびその関連法人  
向けリース業務

#### 用語解説

##### ISO27001

ISO27001とは国際標準化機構が定めた情報セキュリティマネジメントシステムの仕様に関する世界標準の規格です。

# IRに対する考え方

---

## 基本的な考え方

---

芙蓉リースは、2004年12月から東京証券取引所市場第一部に上場しており、経営の透明性を確保するために、株主・投資家の皆様をはじめ、すべてのステークホルダーに適時・適切かつ公平に情報を開示するよう努めています。

また、さまざまな機会や手段を用意して、株主・投資家の皆様と積極的にコミュニケーションを図っています。

## ディスクロージャー・ポリシー

---

芙蓉リースでは、ステークホルダーに当社を正しくご理解・ご評価いただくための情報開示に関する基本方針として、「ディスクロージャー・ポリシー」を定め、Webサイトで公表しています。

[ディスクロージャー・ポリシー](#)



# 株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

---

## 株主総会

---

芙蓉リースでは、株主の皆様の利便性に配慮し、株主総会の集中日を避けて早期に株主総会を開催するとともに、招集通知も早期に発送しています。また、株主の皆様の議決権行使の利便性を高めるために、インターネットで議決権を行使していただけるようにしています。

株主総会は株主の皆様とのコミュニケーションの場であるとの考えから、報告内容については映像や図・表を使ってわかりやすく説明するなど、開かれた株主総会を目指しています。

## 株主様向け小冊子「決算のご報告」「中間のご報告」

---

芙蓉リースでは、業績や事業トピックスなどの企業活動を小冊子「決算のご報告」「中間のご報告」にわかりやすくまとめ、半期ごとに株主の皆様へお送りしています。

## Webサイト「個人投資家の皆様へ」

---

芙蓉リースでは、Webサイトの「IR情報」ページに「個人投資家の皆様へ」と題したコーナーを開設し、個人の株主・投資家の皆様にわかりやすくIR情報をお伝えしています。

## 決算説明会

---

芙蓉リースは、機関投資家やアナリストの皆様を対象にした決算説明会を年2回、5月と11月に開催しています。また、アナリストの皆様との個別ミーティングも行っており、2015年度は延べ61社と実施しました。

# 株主還元と株式の状況

## 株主還元に関する基本方針

芙蓉リースグループは、業績および経営目標などを勘案し、経営基盤・財務体質の強化をめざして株主資本の充実に努めるとともに、株主の皆様への長期的・安定的な利益還元を努めることを基本方針としています。

また、株主の皆様からの日頃のご支援にお応えし、当社株式への投資魅力を高め、長期的に当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的に、株主優待制度を導入しています。

## 株主優待制度と制度に連動した寄付について

芙蓉リースでは、上記の株主優待制度導入の目的を推進するため、優待品を図書カードまたはカタログギフトとの選択制にするとともに、保有継続期間2年未満の株主様には3,000円相当、2年以上の株主様には5,000円相当の優待品を贈呈しています。

また、「リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する」という当社の経営理念を株主の皆様とともに推進していくために、株主優待相当額の10%を当社から社会貢献活動に取り組んでいる団体などへ寄付する制度を導入しています。

2015年度は、経済同友会が事務局を運営する東日本大震災の被災地支援活動「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」と中央共同募金会「平成27年台風第18号による大雨等災害義援金」に、それぞれ256万円の寄付をしました。

### ■ 寄付実績

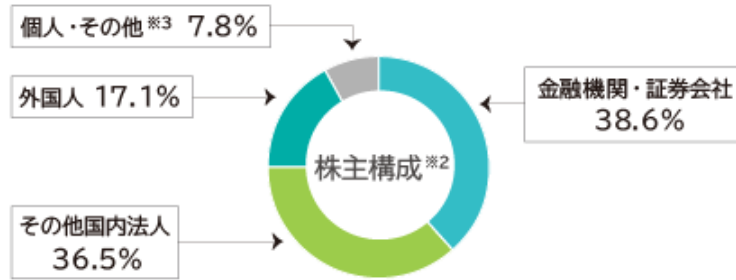
実施年度	寄付先(寄付の概要)	寄付金額(円)
2011年度	日本赤十字社(東日本大震災/被災地に向けた義援金)	2,594,500
2012年度	中央共同募金会(東日本大震災/ボランティア活動・NPO活動支援)	2,959,600
2013年度	経済同友会 IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 第5期 (東日本大震災/被災高校へ実習機材の提供)	4,233,900
2014年度	① 経済同友会 IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 第7期 (東日本大震災/被災高校へ実習機材の提供)	2,249,550
	② 日本赤十字社 (2014年 西アフリカ エボラ出血熱救援金)	2,249,550
	計	4,499,100
2015年度	① 経済同友会 IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 第9期 (東日本大震災/被災高校へ実習機材の提供)	2,561,900
	② 中央共同募金会 (平成27年台風第18号による大雨等災害義援金)	2,561,900
	計	5,123,800

寄付先や寄付金額は毎年秋にWebサイトで報告しています。

### 株主優待制度

## 株式の状況(2016年3月31日現在)

- 株主数: 13,641名
- 株式数: 30,287千株<sup>※1</sup>
- 株主構成<sup>※2</sup>



※1 千株未満は切り捨てて表示しています。

※2 株主構成は株式数ベースです。

※3 個人・その他には、自己名義を含んでいます。

# 社会貢献に対する考え方

---

## 社会貢献に対する基本的な考え方

---

芙蓉リースグループは、地域社会との深い関わりを認識し、地域社会の発展に貢献する「良き企業市民」としての役割を果たしていきたいと考えています。

こうした考えのもと、当社グループは、以下のように基本方針を定めて社会貢献活動に取り組んでいます。

### 社会貢献方針(抜粋)

#### ■ 第3条(社会貢献の対象分野)

以下の対象分野について取り組む

- (1) 環境
- (2) 地域社会への貢献
- (3) 学術・研究
- (4) 災害被災地支援

#### ■ 第4条(実施の判断基準)

以下の基準に照らして実施の判断を行う

- (1) 社会からの理解  
公共性が高く、広く社会の理解が得られる取り組み
- (2) 当社の特徴を活用  
当社のノウハウや商品・サービスを活かした取り組み

# 本業を通じた社会貢献活動

## 活動事例

### アクアリウムで笑顔と癒しを届ける活動が地域一体の活動へと発展

#### インテリア水槽を使った社会貢献活動「アクアdeスマイル」

芙蓉リースは、グループ会社のアクア・アートとともに社会貢献活動「アクアdeスマイル」を推進しています。この活動は、「都会の子供たちに熱帯魚を見せてあげたい」「アクアリウムで、笑顔と癒しを届けたい」という想いをコンセプトに、保育園や母子生活支援施設などにインテリア水槽「AQUA ART」を寄贈（無償レンタル）することから始めました。2013年度からは活動をさらに発展させ、寄贈に加えて、毎年「AQUA ARTデザイン・コンペ」と「児童向け出前授業」も実施しています。

「AQUA ARTデザイン・コンペ」は、芙蓉リース本社の近隣に所在する東京都立工芸高等学校と東京デザイナー学院で美術やデザインを専攻する生徒・学生さんたちに水槽内のデザイン制作を競ってもらい、優秀な作品を商業施設などで一般公開する活動です。2015年度からは、同じく近隣に所在する株式会社東京ドームホテルに賛同いただき、同ホテルのロビーなどで作品を展示するなど、文字通り地域一体の活動に発展しました。

2016年度は、7月30日～8月9日の間、「夏」をテーマとした6作品を展示しました。若いアーティストたちの自由な感性が織り込まれた水槽内のデザインは、創造力と楽しさに溢れ、期間中、会場にたくさんの笑顔の花を咲かせてくれました。夏休み明けには表彰式も行います。



東京都立工芸高等学校の制作グループの生徒さん：東京ドームホテルのロビーに展示した作品とともに（2016年夏）



試作品のレイアウト作業

#### 水槽の寄贈先の子供たちに楽しく生態系などを学んでもらう出前授業を実施

「出前授業」は、児童向けの環境教育活動として、水槽を寄贈している保育園や母子生活支援施設の皆さんに、もっと喜んでいただくために始めたイベントです。

社員を講師に「AQUA ART水槽」の魚を題材にクイズ形式で自然界の生態系などを学んでもらい、勉強のあとは「熱帯魚すくい」で盛り上がります。



社員による児童向けの出前授業



熱帯魚すくい

## アクアdeスマイル活動のロゴについて

「アクアdeスマイル」活動のシンボルマークとなるロゴができました。このロゴは、都内の美術大学や東京デザイナー学院の学生さんたちに制作を呼びかけ、ご応募いただいた多くの作品の中から選んだデザインです。ポップでカラフルなこのロゴのように、みんながワクワクする楽しい「アクアdeスマイル」活動を、さらに広げていきたいと考えています。



東京デザイナー学院の在校生がデザインしたシンボル・ロゴ

## 働く意義を伝えるインターンシップを実施し、次代を担う学生に職業体験の機会を提供

芙蓉リースでは、次代を担う大学生や大学院生に働く意義を伝えることを目的に、リースビジネスへの理解を深め、実際の仕事の一部を体感できるインターンシップを開催しています。

開催6回目となる2015年度は12～2月に計9日開催し、203名の学生が参加しました。

リースの基本などを学んだ後、契約書類の作成やリースをテーマとしたグループワークを実施。さらに若手社員を交えた懇談会を開催して、仕事の遣り甲斐、大変さ、学生と社会人との違いなどについて意見交換を行いました。

参加学生からは、「リース事業への理解に加え、働くとはどのようなことなのかを考えるきっかけとなった」「グループワークでは社員の方から鋭い意見をもらい、社会人の視点を感じることができた」といった感想が寄せられました。2016年度も開催を予定しています。



グループワーク



グループによる発表



# その他の社会貢献活動

## 活動事例

### CSR研修の一環として、若手社員に福祉・介護研修を導入

芙蓉リースでは、介護事業最大手の株式会社ニチイ学館のご協力のもと、2013年度から入社2年目の若手社員を対象に「福祉・介護研修」を導入しています。

2015年度の研修では、「高齢化社会と介護保険制度の実情」「求められる介護、要支援者・要介護者への対応」「認知症の理解」などの講義のあと、目・耳・手・膝などに専用のプロテクターをつけて行う高齢者の運動機能の疑似体験や、車椅子の介助体験などを実施しました。

本研修をきっかけに、若手社員が高齢化社会を取り巻く状況を理解し、併せて日常の場面、例えば、電車や雑踏で高齢者の方を手助けできるようになることを期待しています。本研修は、今後も継続して実施する予定です。



各種プロテクターをつけた高齢者の運動機能の疑似体験



車椅子の介助体験

### 新宿駅西口での「まち美化」活動

芙蓉リース東京営業第三部(旧称:新宿支店)では、新宿駅西口で地元の方々とともに清掃活動に取り組んでいます。

2016年2月18日には、新宿西口の「ポイ捨て防止・路上喫煙禁止キャンペーン」に社員7名が参加しました。

2016年5月30日の新宿区の「ごみゼロデー」にも社員4が参加しました。



とても寒い日で、たっぷり重ね着して参加しました

## 「FITチャリティ・ラン2015」への参加

芙蓉リースグループでは、「FITチャリティ・ラン(Financial Industry in Tokyo For Charity Run)」に2009年から毎年参加しています。

「FITチャリティ・ラン」は、東京の金融サービス企業が集まって募金活動を行い、地域に根ざした活動をしている非営利団体を支援することを目的としたチャリティ・イベントです。

11回目の開催となった「FITチャリティ・ラン2015」は、11月8日に聖徳記念絵画館および明治神宮外苑周辺道路において開催され、当社グループからは10kmランに社員20名が参加しました。



あいにく、冷たい雨の中の開催となってしまいました

## 地域の皆様を「福岡 ヤフオク!ドーム」にご招待

芙蓉リースでは、「福岡 ヤフオク!ドーム」のメセナシートを購入し、地域の福祉施設の皆様やスポーツ青少年をご招待する活動を、2012年度から実施しています。

購入しているメセナシートは、一塁内野側の年間指定20席で、福岡ソフトバンクホークスの公式試合を全日程観覧できます。

すでにお越しいただいた方々には、たいへんご好評をいただいております。今後も、地域の皆様といっそうの親交を図るために、この観覧席を役立てていく考えです。



福岡 ヤフオク!ドーム



メセナシート

## 寄付活動

### ■ 寄付実績(単位:万円)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
災害被災地支援	354	296	423	450	512
環境	207	186	50	50	50
文化芸術・学術研究	108	103	1,604	1,603	103
その他	21	11	112	41	31
合計	690	596	2,189	2,144	696

### 「芙蓉ハートフルファンド100」の取り組み

芙蓉リースグループでは、社員が寄付を通じて社会に貢献するための基金「芙蓉ハートフルファンド100」を2010年11月に設立しました。ファンドに入会した役員・社員は、給与から毎月100円(役員は300円)を寄付資金として積み立て、積み立てられた寄付資金は、環境保全、地域社会貢献、学術・研究支援、災害被災地支援などの分野で活動を展開している団体などに寄付しています。

2015年度は、このファンドを通じて国内外の4つの被災地支援・人道支援プロジェクトに各15万円、あわせて60万円を寄付しました。



あなたの応援が、  
復興への一歩になる。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトに参加  
しました

### 使用済みの切手の寄付

芙蓉リースグループでは、オフィスや社員の家庭で使用済みとなった切手を回収し、海外における保険医療分野の支援協力などを推進している団体へ寄付しています。2015度は、1,843gを回収し、寄付しました。

### ■ 使用済みの切手・プリペイドカードの寄付実績

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
使用済みの切手	2,825g	2,637g	2,041g	2,612g	1,843g

# 人事制度と能力開発

## 基本的な考え方

芙蓉リースグループでは、差別のない、公正・公平な選考を行うことを、社員を採用する際の基本方針としています。また、職場で働く社員一人ひとりが互いの人間性を尊重しながら、自律的に成長できる機会の提供に努めています。

芙蓉リースでは、これまで以上に能力・成果・職責を重視した処遇を実現するため、2013年1月に人事制度を改定し、社員一人ひとりが意欲をもって仕事に取り組むことのできる「働きがいのある職場づくり」をめざしています。

## 公正かつ公平な評価の実現

芙蓉リースでは、これまで以上に公正かつ公平な評価を実現するため、2013年1月から人事制度の改定に合わせて評価制度も改定しました。

賞与に反映する業績評価については、社員一人ひとりが所属する部門で果たすべき役割と期待される成果を目標管理制度のなかで明確にし、それを評価制度と一体化することで、結果を生み出すためのプロセスにも着眼できる仕組みにしました。

また、昇給・昇格に反映する能力・意欲評価は、社員一人ひとりが担っている役割を果たすために求められる能力などを整理し、評価すべき能力や意欲を明確にしました。

そのうえで、これまで以上に評価者とのコミュニケーションを充実させ、いっそう公正かつ公平な評価の実現をめざしています。

## 各種研修、自己啓発

### リースの基礎・実務知識を学ぶ入社後研修

リース事業は、法務、税務・会計、金融、商品、業界動向など幅広い知識が求められます。芙蓉リースでは、入社後2年間で「リースの基礎・実務知識」の習得期間と位置づけ、社内外の講師による各種研修を実施することで、着実な知識レベルの向上とステップアップを図ります。

また、「通信教育(85講座)」・「eラーニング(8テーマ)」の受講、「資格」の取得を奨励するため、自学自習の環境を整え、自己啓発支援にも力を入れています。

[教育制度の詳細な説明はこちら](#)



熱心に研修課題に取り組む若手社員

### 社員の意欲に応える、「やる気」応援塾

芙蓉リースでは、コーポレートスローガン「前例のない場所へ。」にチャレンジし続ける、やる気と意欲のある社員を全面的に応援していくことをコンセプトに、『FUYO「やる気」応援塾』を、2013年度からスタートさせています。

「応援塾A」は、リース事業のさらなるグローバル化を展望し、社員の英語力向上のため、英会話スクールへの通学を支援しています。また、「応援塾B」は、総合職を対象に、思考力、リーダーシップ・マネジメント力、経営戦略立案・マーケティング力等を高めるため、ビジネススクールへの通学を支援しています。2016年度には「応援塾C」を新設し、一般職を対象に、担当職務領域の拡大や職務遂行能力の伸長を図るため、「業務改善」「タイムマネジメント」「リーダーコミュニケーション」等の公開セミナーへの通学を支援しています。

今後も、社員の「やる気」に応え、制度の拡充を図っていきます。



プレゼンテーションを終え「ホッ」とした表情の西岡なつき社員(ホワイトボード前) ~グロービス・マネジメント・スクールでの自主勉強会にて

## 社内公募制度

芙蓉リースでは、自発的なキャリア形成を支援する「社内公募制度」を設けています。

海外トレーニー（研修生）のほか、与信判断、航空機リース、経理などの各部門で制度を適用しています。

海外トレーニーは、米国や香港にある当社のグループ会社や、取引のある金融機関の中国現地法人に1～2年間派遣し、現地で日常業務に携わることで、国際金融取引の基礎知識や語学力の向上をめざしています。

2015年度は香港、中国、米国に3名を派遣しました。



米国(NY)に派遣しているトレーニー



中国に派遣しているトレーニー

## 自己申告制度

芙蓉リースでは、社員の自律的かつ継続的な能力開発の推進を図るため、「自己申告制度」を設けています。社員は、「自己申告書兼キャリア開発表」を通じて、「どのような能力の向上や職務領域の拡大が図れたのか」、自身の成長のために「どのような自己啓発に取り組み、今後どのような分野で経験を積んでいきたいのか」を、年1回、会社に申告します。会社は、この申告内容をもとに、一人ひとりのキャリア形成の考えを把握し、人事施策に反映させています。

また、2014年度には「能力開発計画書」を新たに制定し、これまでに受講した教育諸制度の受講状況を社員一人ひとりに還元し、自己啓発諸制度の自発的な活用を促進しています。

## コース転換制度

芙蓉リースでは、社員の就労や能力開発に関するニーズの多様化に応えるために、一般職から総合職、あるいは総合職から一般職への転換を図る「コース転換制度」を設けています。2011年4月から2016年7月までに5名がこの制度を利用して、新しいフィールドで活躍しています。

## 人権啓発研修

芙蓉リースでは、新入社員研修や新任次課長研修などの階層別研修のなかで継続的に人権啓発研修を実施しています。また毎年、芙蓉リースグループの全社員に「人権啓発リーフレット」を配布し、人権を尊重することの大切さを啓発しています。

また、パワーハラスメントやセクシュアルハラスメントをはじめとする人権侵害については、社内外に通報窓口を設けています。



# 多様な人材登用

## 基本的な考え方

芙蓉リースでは、コーポレートスローガン「前例のない場所へ。」のもと、お客様の期待を超えるソリューションの提供を実現するため、多様な価値観や発想力を持った人材の育成・登用に努めています。

## 女性社員の活躍推進



### 女性がこれまで以上に持てる能力を発揮し、活躍できる環境づくりに向けて ～女性の活躍推進に向けた「行動計画」を策定・推進～

当社は、女性の活躍推進を経営上の重要課題と捉えています。

女性がこれまで以上に持てる能力を発揮し活躍できる環境づくりに向け、「採用」「人材育成」「風土改革」「両立支援」の4つのテーマで、女性の活躍推進に向けた施策に取り組んでいます。

#### ■ 一般事業主行動計画の概要

計画期間	2014年12月5日から2020年3月31日まで
目標	<ul style="list-style-type: none"><li>① 新卒採用における女性比率30%を目指す</li><li>② 女性管理職の登用目標を定めた2014年時点に対し、2020年までに1.5倍(40名)にする</li></ul>
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"><li>① 女性採用の強化</li><li>② 育成方針の明確化</li><li>③ 管理職候補者のキャリア開発支援</li><li>④ キャリア講演会の開催</li><li>⑤ 所定外労働時間の削減</li><li>⑥ 企業風土の改革</li><li>⑦ 短時間勤務制度の適用基準の緩和</li><li>⑧ 男性社員の育児休業等取得の推進</li></ul>



## 新卒女性採用の強化～女性社員の働き方を紹介～

当社で働く女性社員の姿を学生の皆さんがイメージし易いように、様々な部門で働く女性社員の仕事内容・キャリア・子育てとの両立などを採り上げ、2017年度新卒採用向けの入社案内を改定しました。また、女子学生を集めたイベントへの出展を通し、女子学生の皆さんとのコミュニケーション強化に努めています。

## 一人ひとりのキャリアプランを支援する3者面談を実施

すべての女性総合職を対象に、本人、所属長、総務部の3者間で定期的な面談を実施しています。課題や将来像を踏まえ、個人別のキャリアプランを設計し、一人ひとりの育成を支援しています。また、管理職登用に向けて、マネジメントスキルやリーダーシップなどの外部研修機会を適宜提供し、能力向上・スキルアップに向けて育成を支援しています。

## 女性社員を対象とした「キャリア講演会」を開催

女性社員がこれからのキャリアを考え、設計する機会として、外部講師による「キャリア講演会」を開催しています。2015年2月から2回開催し、延べ108名の女性社員が参加しました。

### ■ キャリア講演会のテーマと内容

回	テーマ	内容
第1回	「女性が働き続けるということ」 ～これからのキャリアを考える～	女性の働く環境変化、女性が活躍している他社の事例などを聞き、これからのキャリアについて考える
第2回	「気持ちよく働ける職場づくり」	CS・ESの幸せサイクル ～職場のさまざまな人の価値観を受け入れ、気持ちよく生産性の高い仕事をするため、心のマナーやコミュニケーションについて考える～



キャリア講演会(2015年7月)

## より良い職場環境づくりに向けたワーキンググループ活動

女性社員が、中長期的なキャリアビジョンを描き、いきいきと働き続けられる職場環境の整備を目的に、ワーキングマザーや男女若手社員による「女性活躍推進ワーキンググループ」を結成し、活動を継続・推進しています。

2015年には、主に「仕事と育児の両立支援」をテーマに活動を行い、両立支援や女性活躍推進の取り組みに関する情報を掲載した『会社で支える「子育て支援ガイドブック」』を作成し、社員全員に配布しました。

活動2年目となる2016年は、女性採用の強化と男性社員の育児休業取得推進をメインテーマに活動しました。

また、社員一人ひとりの理解を深めるために、資料『みんなで考える職場環境創り』を作成し、グループ会社を含めた社員全員に配布したほか、女子学生の目線に合わせた採用入社案内の改定にも取り組みました。

男性社員の育児休業の取得推進に関しては、社員に育児支援制度の周知を図るためのリーフレットを作成するとともに、育児休業を取得する社員全員に子育てグッズの贈呈を開始しました。



活動2年目を進める第二期ワーキンググループのメンバー



# 働きやすい職場づくり

---

## “働き方の変革”～効率的な時間運営の推進～

---

芙蓉リースは、「働きがいのある職場づくり」を実現するため、すべての社員が自律的にワーク・ライフ・バランスを推進し、ワークとライフ双方のクオリティ(健康の維持・増進、知識・見聞の拡大、自己啓発など)を高めることのできる職場環境の整備に努めています。

その一環として、2014年度から全社の課題として、“働き方の変革”に取り組んでいます。具体的には、原則毎週水曜日に設定している「リフレッシュデー(ノー残業デー)」、8月上旬の2週間にわたって設定している「夏季ノー残業期間」は、退社目標を18時に設定しています。2015年度は、目標時刻までに退社した社員の割合が、いずれも90%を超えました。

年次有給休暇(年休)の取得推進については、2011年度に制定した「夏季・冬季の連続休暇取得奨励制度」に加え、2015年度は「年間10日以上有給休暇取得の奨励」を推進しました。

その結果、2015年度の年休取得率は前年度と比べ3.4ポイント増の61.9%と、次世代育成支援対策推進法に基づく「第六期行動計画(期間:2015年4月～2017年3月)」の目標で掲げている60%以上を達成しました。

2016年度については、特に年休取得率が低い総合職の取得率向上をめざし、「5日間連続年休取得制度」を導入し、一層の取得推進に努めています。

## 労働安全衛生法への対応

---

芙蓉リースは、社員が健康で安全にいきいきと働ける職場環境を整えることが、会社を活性化させ、生産性の向上につながるものと考えています。

この考えのもと、労働安全衛生法に基づく「衛生委員会」を毎月1回開催し、職場の安全衛生水準の維持・向上に努めています。また、2015年12月に労働安全衛生法の改正によって義務付けられたストレスチェックについても対応しています。

## メンタルヘルスケア

---

芙蓉リースは、社員のメンタルヘルスの維持・増進のために、2010年からストレスチェックを実施しています。ストレスチェック義務化に伴い、実施体制・方法につき改めて「衛生委員会」で審議し、社内規程を定め、2016年5月に関係会社5社とともに実施しました。

社員はWeb上でストレスチェックを受け、約1ヵ月後に、実施者である産業医の評価結果をWeb上で確認することができます。その際、高ストレス者と判定された社員には、産業医との面接指導を推奨するとともに、面接指導の結果を踏まえて、必要な就業上の対応を行っています。

また、労働安全衛生法に定めるストレスチェック以外でも、社員はその家族を含めて、専門カウンセラーに相談することができます。それらの結果については、会社には開示されず、個人のプライバシー保護に配慮しています。

# 次世代育成支援

## 自主行動計画

芙蓉リースでは、2005年に次世代育成支援対策推進法が施行されて以来、同法に基づき「一般事業主行動計画」を2年ごとに策定し、次世代育成支援のための労働環境の整備に取り組んできました。

その結果、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を達成し、仕事と家庭の両立支援に取り組んでいる企業として、2007年度、2009年度、2011年度、2013年度に引き続き、2015年度に東京労働局から5回目の「基準適合一般事業主」の認定を受け、厚生労働省の「次世代認定マーク」(愛称:くるみんマーク)の5つ星マークを取得しました。

なお、1995年から2015年度末までに延べ約100名が育児休業を取得し、その大半が育児休業から復職しています。

2015年4月にスタートした第六期行動計画では、男性社員の育児休業等の取得率30%以上を目標に取り組んでいます。2015年度は配偶者が出産した男性社員23名のうち9名(39%)が育児休業を取得しました。

2015年度末現在、育児休業を経て、子育てをしながら活躍しているワーキングマザーは54名で、総合職、一般職をあわせた女性社員の26%に上っています。



くるみんマーク

### 第六期行動計画(2015年4月～2017年3月)に基づく取り組み

育児・介護との両立を支援し、性別に関係なく働きやすい労働環境を整備するため、下記のとおり行動計画を策定しました。

#### 内容

- 男性社員の育児休業などの取得推進
- 短時間勤務制度の緩和
- 所定外労働時間の削減
- 年次有給休暇の計画的な取得推進
- 働き方の見直しに資する取り組みの実施

#### 数値目標

- 男性社員の育児休業および関連制度利用者を30%以上にする
- 年次有給休暇取得率を60%以上にする

# 社員関連データ

## 芙蓉リースグループ 連結データ

### 社員数(名)

	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末
社員数	1,504	1,500	1,521	1,542	1,559

## 芙蓉リースグループ 単体データ

### 社員数(名)

	2011年度末			2012年度末			2013年度末			2014年度末			2015年度末		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
総合職	427	20	447	455	24	479	454	27	481	452	30	482	455	38	493
一般職	1	145	146	1	152	153	2	147	149	2	147	149	3	146	149
嘱託	12	6	18	19	7	26	19	11	30	27	11	38	19	9	28
合計	440	171	611	475	183	658	475	185	660	481	188	669	477	193	670

### 新卒採用人数(名)／定着率(%)

入社年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
総合職	17	16	12	17	16
一般職	1	0	1	1	0
合計	18	16	13	18	16
入社3年後の定着率	92.6	92.8	100	94.4	87.5

### 退職者数(名)／退職事由／離職率(%)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
総合職	8	4	6	4	5
一般職	3	6	3	4	1
合計	11	10	9	8	6
自己都合	7	8	7	5	3
定年	4	2	1	0	2
その他	0	0	1	3	1
離職率	1.7	1.4	1.3	1.1	0.8

※ 離職率＝各年度の退職者数÷期初人数×100

## 平均年齢(歳)／平均勤続年数(年)／平均給与(千円)

	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末
年齢	40.1	41.0	41.4	41.9	41.7
勤続年数	15.1	15.4	15.9	16.3	16.6
年間給与	8,094	8,167	8,222	8,293	8,366
有休取得率(%)	60.1	60.9	59.1	58.5	61.9

## 女性管理職者数(名)

	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末
女性管理職者	22	26	25	25	27

## 海外トレーニー派遣者数(名)

	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末
派遣者数	3	2	2	3	5

## コース転換制度利用者数(名)

	2012/4	2013/4	2014/4	2015/4	2016/4
利用者数	2	0	0	2	1

## 正社員チャレンジ制度利用者数(名)

	2012/4	2013/4	2014/4	2015/4	2016/4
利用者数	—	—	0	4	1

## その他社員関連データ

	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末
育児休業取得者数(名)	9	4	4	8	9
定期健康診断受診率(%) <sup>※1</sup>	99	97	99.7	99.8	97.5
障がい者雇用率(%)	1.9	2.0	2.0	2.0	1.8
労働災害発生件数(件) <sup>※2</sup>	1	3	4	2	2

※1 定期健康診断は、35歳未満までが一般検診、35歳以上40歳未満は成人病検診、40歳以上は人間ドックを実施しています。

※2 通勤途上の道路での転倒によるケガなどで、全件軽症です。

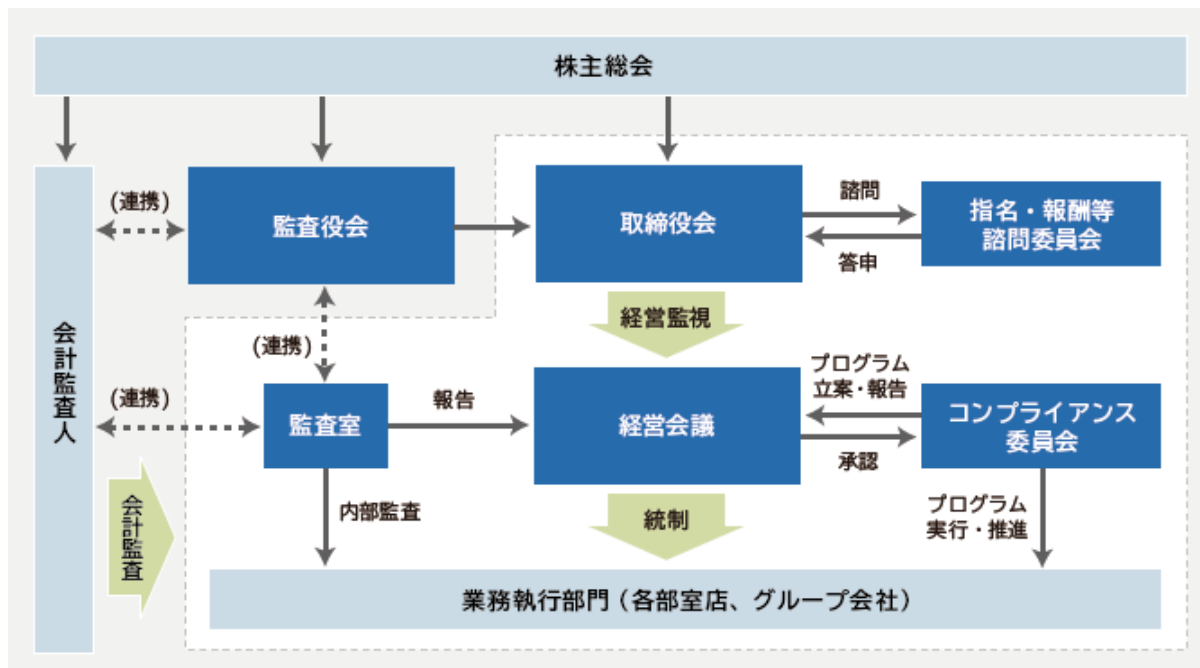


# コーポレート・ガバナンス

## 基本的な考え方と体制

芙蓉リースグループは、株主の皆様、お客様、社員、地域社会など、さまざまなステークホルダーとの関係を重視し、当社の経営理念のもと、誠実かつ公正な企業活動を遂行することがコーポレート・ガバナンスの基本であり、最も重要な課題であると考えています。

### ■ コーポレート・ガバナンス体制図



詳しくはコーポレート・ガバナンス報告書をご覧ください。

 [コーポレート・ガバナンス報告書](#) (3.09MB)

### ■ コーポレートガバナンス・ガイドライン

当社は、2015年9月開催の取締役会において、「コーポレートガバナンス・ガイドライン」を制定しました。

本ガイドラインは、当社の持続的成長と中長期的な企業価値向上を図るため、東京証券取引所が定める「コーポレートガバナンス・コード」の趣旨・精神を踏まえつつ、当社におけるコーポレートガバナンスの基本的な考え方、枠組み及び運営方針等を定めています。

詳しくはコーポレートガバナンス・ガイドラインをご覧ください。

 [コーポレートガバナンス・ガイドライン](#) (337KB)

# リスク管理/コンプライアンス

---

## リスク管理体制

---

芙蓉リースグループは、リスク管理規程を制定し、管理すべきリスクの特性や重要性に応じた管理体制を構築しています。

管理すべきリスクを、信用リスク、市場リスク(金利変動リスクなど)、流動性リスク(資金繰りリスクなど)、事務リスク、システムリスク、法務リスク、レピュテーションリスクおよびその他のリスクに区分し、それぞれリスク所管部を定め、管理にあたっています。

各リスクの特性や重要度に応じて取締役会・経営会議においてリスク管理方針の審議や管理状況の報告を実施しているほか、市場リスク、流動性リスクを適切に管理・統制するためにALM(資産・負債管理)委員会を定期開催するなど、リスク管理体制の高度化に注力しています。

また、大規模災害等が発生した場合には、「緊急時対策規程」に従い、社長を本部長とする緊急時対策本部が安全の確保と業務の継続に必要な措置を講じるなど、緊急事態を想定した体制を整備しています。

## コンプライアンス推進体制

---

芙蓉リースグループでは、コンプライアンスの徹底を経営の基本原則として位置づけ、あらゆる法令やルールを厳格に順守し、社会的規範にもとることのない、誠実かつ公正な企業活動を遂行するため、コンプライアンス体制の強化・充実に取り組んでいます。

また、コンプライアンス委員会を設置し、毎年、グループ全体のコンプライアンス・プログラムを策定するとともに、全役員・社員によるコンプライアンスの実践、コンプライアンス教育の推進、コンプライアンス体制の整備など、コンプライアンス・プログラムの推進を徹底するための活動を行っています。

## 内部通報・相談窓口(コンプライアンス相談窓口)

---

芙蓉リースグループは、社内のコンプライアンス相談窓口のほかに、提携している弁護士事務所にも相談窓口を設置しています。

違法行為や不正行為を発見した際、すぐに相談・通報できるよう、社内にポスターを掲示するとともに、携帯用カードをグループの全役員・社員に配付しています。

さらに、2015年9月から、芙蓉リースグループ各社の内部通報窓口として、芙蓉リースの常勤監査役を追加しました。  
また、2016年4月からは、海外現地法人社員からの内部通報窓口についても、提携弁護士事務所内に設置しました。

## コンプライアンス研修

---

芙蓉リースでは、コンプライアンスの徹底を図るために、全社員に対する研修に力を注いでいます。

全社員および関係会社社員を対象にコンプライアンスに関する職場研修やインサイダー取引規制に関するeラーニングを実施しているほか、役員・部室店長・関係会社社長、コンプライアンスの浸透・徹底を目的に各部署で選任しているコンプライアンス・オフィサー向けには外部講師を招いて集合研修などを実施しています。

2015年度は、6月にグループ会社全体に適用する「芙蓉総合リースグループの企業行動規範」を制定し、7月に全社員を対象に、行動規範の周知と理解浸透を図るeラーニングを実施しました。

また、2016年1月には経営層向けに外部講師を招きインサイダー取引規制に関する研修を実施しました。

## コンプライアンス研修の実施状況(2015年度)

### ■ 集合研修

対象者	テーマ	実施回数
新入社員	コンプライアンス入門、企業行動規範、不当要求、信用情報・属性情報、情報漏洩防止、不正防止	3回
2年次総合職	個人情報保護、インサイダー取引規制、セクハラ、不当要求、SNS	2回
5年次総合職	情報管理、情報漏洩防止、不正防止	1回
新任次課長	パワーハラスメント	2回
役員、部室店長	インサイダー取引規制	1回

### ■ eラーニング

対象者	テーマ	実施回数
コンプライアンス・オフィサー、新入社員	インサイダー取引規制(東京証券取引所のeラーニング)	2回
全社員	企業行動規範、コンプライアンス全般	2回

## インサイダー取引の防止

芙蓉リースは、東京証券取引所の要請に基づき、不正取引などの防止および市場の透明性・公正性の維持を目的としたJ-IRISS※に加盟しています。

※ J-IRISS(ジェイ・アイリス:Japan-Insider Registration & Identification Support System): 上場会社が役員情報を登録し、証券会社が自社顧客情報を当該役員情報と定期的に照合することで、不正取引などについて水際で確認し、可能な限り排除することを目的とした日本証券業協会が運営するシステムです。

# 情報セキュリティへの取り組み

芙蓉リースグループは、業務内容に応じた情報管理体制を構築し、お客様の情報を厳格に管理しています。

グループ各社で情報セキュリティマネジメントの推進体制を構築し、以下の各社では情報セキュリティマネジメントシステムに関する世界標準規格であるISO27001 [▼用語解説](#) の認証を取得し、この規格に基づいてシステムを継続的に改善することで、いっそうの信頼性向上に取り組んでいます。

## 芙蓉リース 第三営業部公共法人室

公共法人およびその関連法人向けリース業務を行う芙蓉リース 第三営業部公共法人室は、2010年12月にISO27001の認証を取得しています。

### ISO27001 マネジメントシステム登録証



## 芙蓉リース販売 東京3Rセンター

芙蓉リース100%出資の連結子会社である芙蓉リース販売では、芙蓉リースのリース満了処理業務を中心に、中古物件の買取・販売業務も行っていきます。リース満了物件や中古物件の再商品化を行う拠点として2013年3月に開設した「東京3Rセンター」では、中古情報機器のデータ消去と稼働点検を行うISR(情報セキュリティルーム)において、2013年6月にISO27001の認証を取得しています。

### ISO27001 マネジメントシステム登録証



## エフ・ネット

芙蓉リース100%出資の連結子会社で、情報機器の販売、導入・運用支援、データ抹消などを業務とするエフ・ネットは、2010年1月に全社を対象にISO27001の認証を取得しています。

### ISO27001 マネジメントシステム登録証



#### 用語解説

##### ISO27001

ISO27001とは国際標準化機構が定めた情報セキュリティマネジメントシステムの仕様に関する世界標準の規格です。

# シャープファイナンス

## シャープファイナンスの概要

### プロフィール

シャープファイナンスは販売会社と連携したベンダーリースを中小企業向けに展開するなど、リテールマーケットにおける小口リースに強みをもつリース会社です。

### 会社概要

設立	1982年5月
資本金	30億円
株主	芙蓉総合リース 65% シャープ株式会社 35%
事業内容	各種リース事業、信用販売事業、不動産賃貸業および保険代理業

[「シャープファイナンス」のWebサイト](#)

## シャープファイナンスのCSR活動

芙蓉リースは、シャープ株式会社から同社の100%出資子会社であったシャープファイナンスの発行済株式の65%を2008年4月1日に譲渡を受け、連結子会社化しました。以降、芙蓉リースとシャープファイナンスは相互のノウハウを融合し、多様化・高度化するお客様ニーズに対応しています。

## 小形風力発電を通じた環境への取り組み貢献

### セールス担当者より

私は現在、北海道支店に勤務しており、ローン契約を活用した小形風力発電機の導入をヤンマーアグリジャパン北海道カンパニー様とコラボしてお客様へ提案しています。

エネルギーの約94%を海外からの輸入に頼っている日本では、エネルギーの自給率の向上が大きな課題のひとつとなっており、近年、太陽光発電や地熱発電といった自然のチカラを電気エネルギーに変換する「再生可能エネルギー」に注目が集まっています。

小形風力発電機は、風さえあれば昼夜を問わず発電でき、同じ出力の太陽光発電よりも省スペースでの設置が可能な商品です。また、広大な平地があり、風況の良い適地が多い北海道地域の特性を生かせる発電システムとなっています。

先日、すでに小形風力発電機を導入されているお客様から、「シミュレーション通り発電してくれて嬉しい。導入して本当に良かった」という声をいただき、私自身も大変嬉しく思いました。今後ますます導入促進が期待される風力発電をもっと多くのお客様へ広めたいと強く感じました。

現在、「再生可能エネルギー」を利用したECOネットワークシステムの実用化に向けた試みが社会全体で進められており、今後も、小形風力発電機の導入を通じて環境と社会に貢献していきたいと思っております。





# 芙蓉オートリース

## 芙蓉オートリースの概要

### プロフィール

芙蓉オートリースは、お客様の車に関する煩雑な業務を減らし、経営の合理化をトータルにサポートしています。

### 会社概要

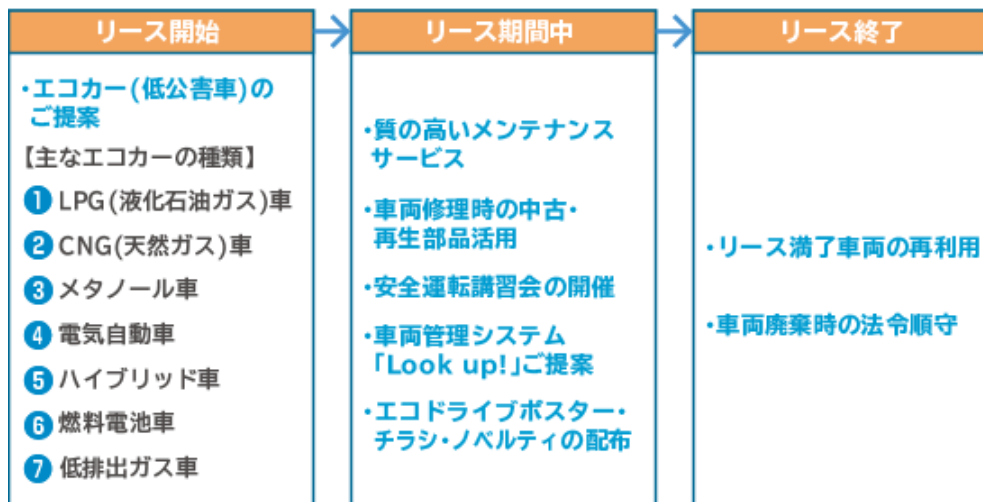
設立	1987年1月
資本金	24,000万円
株主	芙蓉総合リース(100%)
事業内容	自動車のリース・割賦・売買、自動車の整備・修理・保守サービス、自動車給油カード・ETCカードなどの取り扱い

[「芙蓉オートリース」のWebサイト](#)

## 事業活動における環境負荷の低減

芙蓉オートリースは、芙蓉リースグループの環境方針に基づき、全社一丸となって環境負荷の低減に努めています。なかでも、本業であるオートリースにおいては、リース開始、リース期間中、リース終了のすべての段階で環境活動に取り組んでいます。

### ■ オートリース事業における環境活動



### ドライブレコーダーのご提案による、お客様の事故防止を支援

芙蓉オートリースでは、ドライブレコーダーの提案によって、お客様の事故防止を支援しています。

ドライブレコーダーとは、車両に大きな衝撃が加わった前後十数秒の時刻、位置、前方画像、加速度、ウインカー操作、ブレーキ操作等を記録する車載カメラ装置です。

#### ■ ドライブレコーダーの特徴

- 運転者がヒヤリハット・交通事故を起こしやすい運転行動を振り返って客観的に確認することができます。
- 運転者は自身の運転行動を把握し、その反省を生かして安全運転に対する意識を向上させ、交通事故に遭うことを防止できます。



### 導入事例

#### お客様導入事例 日本リーテック株式会社

日本リーテック株式会社様は、電気設備に関する企画から設計・施工・メンテナンスまで、最先端の技術であらゆるインフラを支え、社会の快適と安全を守る設備工事会社です。

同社では、「鉄道電気設備」「道路設備」といった事業特性から、「安全第一」に対する強い意識、使命感を持たれています。社員教育においても「交通安全教育」の一環としてドライブレコーダーの導入を検討され、数年前から試行を開始されました。

その結果、事故削減効果および安全運転意識の向上が確認できたため、全社的に導入・設置する方針を決定されました。

そこで、芙蓉オートリースでは販売会社と協力し、ドライブレコーダー本体の機能や管理者側からPCを利用して確認・検証できるシステム等についてご説明・ご提案させていただきました。提案を検討された結果、交通事故を限りなくゼロにするための有効なツールであるとの評価をいただき、当社提案機器の採用・導入につながりました。

#### お客様の声 日本リーテック株式会社

##### 安全推進部 部長 酒井 幸一様

当社では、全国で約700台の業務用車両を使用しております。そのため交通事故の撲滅は喫緊の課題となっております。

ドライブレコーダーの導入により、個人の「ヒヤリハット」や事故発生時の「画像データ」を使用し、全員で共有することが出来るようになりました。

会社の同僚が経験した「ヒヤリハット」や事故発生時の「画像データ」は、社員に対して説得力のあるものであり、特に「画像データ」は専門家による検証・分析をおこない、どうしたら事故が回避できたか解説をつけて、安全運転教育の教材としています。

交通事故を限りなくゼロにするため、ドライブレコーダーを全業務用車両に設置し、交通ルールの遵守、防衛運転に徹して、交通事故を起こさない風土づくりに活用しています。

これらの取組みを形骸化させることなく継続し、交通事故撲滅の目標達成に向け、社員全員で努力しています。

## 社会への貢献

---

### 交通遺児を支援

芙蓉オートリースは、事業外でも広く社会への貢献をめざしています。

2015年度も、前年度に引き続き、交通遺児支援のための寄付を実施しました。

#### ■ 2013年度～2015年度 支援実績

	活動内容	実績
2013年度	当社社員・会社の寄付金を公益財団法人交通遺児育英会に寄付	74万円
2014年度	当社社員・会社の寄付金を公益財団法人交通遺児育英会に寄付	21万円
2015年度	当社社員・会社の寄付金を公益財団法人交通遺児育英会に寄付	21万円

# エフ・ネット

## エフ・ネットの概要

### プロフィール

エフ・ネットは、ICT機器・ソフトウェアの販売、キッティング・各種設定・構築やデータ消去などの技術サービス、中古PCの再販などを、全社ISO27001認証のセキュリティ基準に基づいて行っています。

### 会社概要

設立	1995年4月
資本金	4,000万円
株主	芙蓉総合リース(100%)
事業内容	サーバー・PC及び周辺機器の販売、キッティング・インストールサービス、中古PCの販売、ネットワークシステム構築

## 中古PCのリユースを推進

エフ・ネットの深川テクニカルセンターは、中古パソコンを使いたい方の手にお渡しする再商品化(リユース)を行っています。

受け入れている中古パソコンは毎月約5,000台(年間約6万台)に上り、データ消去や動作チェックといった適切な処置はもちろんのこと、セカンドユーザーが使いやすいように、リース・レンタルの開始時にあらかじめお預かりしていた取扱説明書などの付属品も併せてお渡ししています。深川テクニカルセンターは、これら一連の作業体制を整え、芙蓉リースが提供する「PC Eco & Value!リース」「PCレンタル」で契約期間満了を迎えた中古パソコンの再商品化を支えています。



深川テクニカルセンター

# 芙蓉リース販売

## 芙蓉リース販売の概要

### プロフィール

芙蓉リース販売は、芙蓉リースのリース満了案件の事務処理代行、中古物件の販売代行のほか、お客様が所有する物件の買取り・販売なども行っています。

### 会社概要

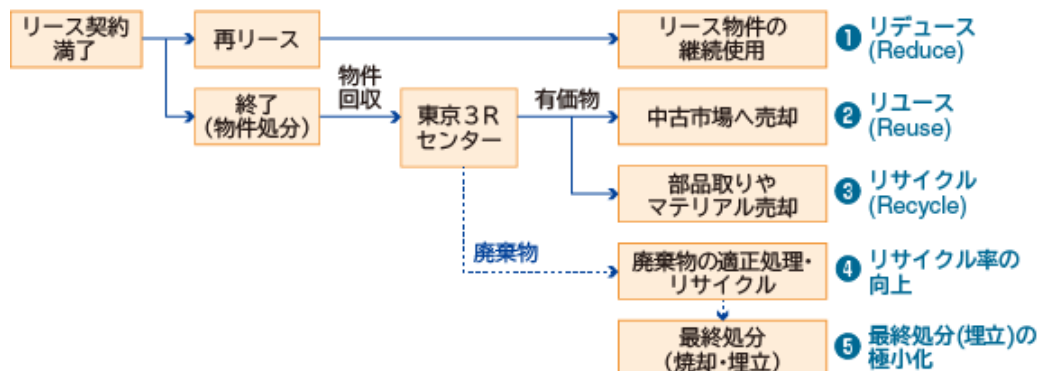
設立	1996年4月
資本金	1,000万円
株主	芙蓉総合リース(100%)
事業内容	再リース契約に関する事務処理、リース終了物件の売却・廃棄に関する事務処理、古物売買

[「芙蓉リース販売」のWebサイト](#)

## 3Rの推進による省資源・廃棄物削減

芙蓉リース販売は、リース契約が満了した芙蓉リースのリース物件の処理を担っており、芙蓉リースグループの環境方針のもと3R(リデュース:廃棄物の発生抑制、リユース:再利用、リサイクル:再資源化)に取り組んでいます。

### ■ 芙蓉リース販売の業務と3Rの推進



### 東京3Rセンター

リースが満了したパソコンやプリンターなどの有価物のリユース(再商品化)を行ってきた旧「立川リユースセンター」を、2013年3月に「東京3Rセンター」と名称を改め、東京都八王子市に移転・拡充しました。「東京3Rセンター」では、リース満了物件のみならず、企業などから買い取った中古資産のリユース・リサイクルも推進しています。

センターの安全面については、毎年、中央労働災害防止協会に確認していただいています。

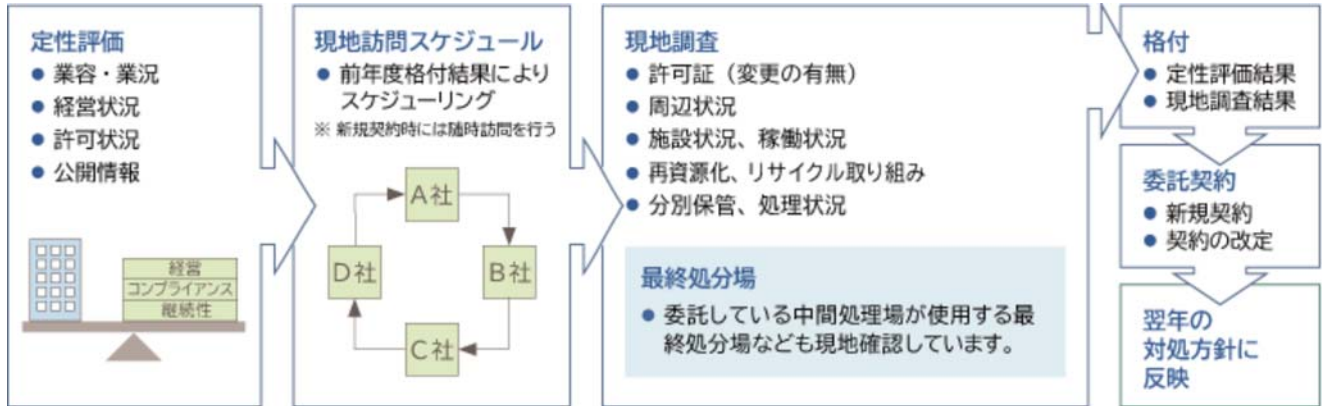
[「東京3Rセンター」のWebサイト](#)

## 廃棄物の適正処理

再利用することができないリース終了物件は廃棄処分しています。廃棄処分に関しては、排出事業者として「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(廃棄物処理法)などの法令順守は当然として、全数を電子マニフェスト※によって厳しく管理しています。処分委託先については、年間を通じたスケジュールにより現地調査を行っています。

※政府は2013年5月に発表した「循環型社会形成推進基本計画」で、電子マニフェストの普及率(2011年度実績:約25%)を、2016年度までに50%とする目標を設定しています。(2015年度の普及率:約42%)

### ■ 委託先の管理



### ■ 帳票の管理





## 中間処理場の代表例

廃棄物は、中間処理場に運ばれ、破碎等の処理を行うことで減量化・減容化されます。その結果、現在では多くの廃棄物が中間処理場で再資源化されるようになりました。

### 株式会社要興業

株式会社要興業の鹿浜リサイクルセンターは、2000年9月に開設された中間処理工場で、首都圏で発生する混合廃棄物の破碎処理・再資源化を行っています。

2002年にはISO14001:1996の認証を取得し、2010年には東京都の優良産廃処理業者認定制度である「産廃エキスパート」の認定を取得。2011年には「優良産廃処理業者」の認定を取得しました。

同社では、排出事業者向けに廃棄物の情報誌「要環境ニュース」を発刊し、無料出張コンサルや講習会等も行い、廃棄物の適正処理の拡大に努めています。



株式会社要興業 鹿浜リサイクルセンター

### 株式会社リーテム

株式会社リーテムの東京工場は、2005年に竣工、稼働した最新工場で、国の都市再生プロジェクトの一環として東京臨海部に建設された「東京スーパーエコタウン」の一翼を担っています。首都圏で排出される金属系廃棄物を中心にさまざまな廃棄物を100パーセント再資源化しています。

2008年7月には、天皇陛下がご視察されました。



株式会社リーテム 東京工場

## 最終処分場の代表例

廃棄物の最終処分は、埋め立てる最終処分場の不足からリサイクル処理へ移行しています。

### 株式会社エコ計画

株式会社エコ計画の寄居エコスペースと嵐山エコスペースは、環境省から民間企業として唯一「産業廃棄物処理特定施設整備法」の認定を受けた、再資源化・リサイクル率の向上に寄与する総合リサイクル施設です。

20品目以上の廃棄物の受け入れが可能な両施設では、総処理量155.8t/日のサーマルリサイクルを中心に、さまざまなニーズにお応えできるよう、マテリアルリサイクル等の新技術開発にも積極的に取り組んでいます。

芙蓉リースは、定期的に同社の処理施設、処分場を訪問して現地確認や情報交換を行い、相互に環境意識を向上できるような関係を築いています。



株式会社エコ計画 寄居エコスペース

# エフ・ジー・エル・サービス

## エフ・ジー・エル・サービスの概要

### プロフィール

エフ・ジー・エル・サービスは、芙蓉リースの本社内において、芙蓉リースグループの各種事務代行や損害保険代理店業務を行っています。

### 会社概要

設立	1973年5月
資本金	7,000万円
株主	芙蓉総合リース(100%)
事業内容	事務受託業、損害保険代理店業

## 環境に配慮した書類の受発送業務

芙蓉リースの本社と支店・グループ会社の間では、頻繁に書類のやりとりが行われています。

この受発送業務を代行するエフ・ジー・エル・サービスでは、ISO14001認証を取得した2006年度から梱包用資材の削減に取り組んできました。

専用のナイロン製バッグやジュラルミンケースを活用することで、紙封筒やダンボール箱をほとんど使用することなく、書類を受発送しています。



専用のエコ・バッグ、エコ・ケース

## 動産保険申し込みのペーパーレス化を実現

リース会社では、特別なケースを除き、ほとんどすべてのリース物件に動産総合保険を付保しています。そのため、膨大な枚数の保険申込書が必要で、従来は毎月4,000~5,000ページにもおよぶ帳票を出力していましたが、2012年度から付保申請を電子情報化することでペーパーレスを実現しました。

## 商品を通じた環境貢献使用済み切手の寄付

芙蓉リースグループでは、オフィスや社員の家庭で使用済みとなった切手を集めています。

集まった使用済み切手は、エフ・ジー・エル・サービスが分別・整理して、保健医療分野で支援活動を行っているNGOへ寄付しており、主に海外の保健医療が十分でない地域の支援活動に役立てられています。

2015年度は、約1.8kgの切手が集まり、公益社団法人日本キリスト教海外医療協会東京事務局に寄付しました。



寄付するために集まった使用済み切手を丁寧に整理します

# アクア・アート

## アクア・アートの概要

### プロフィール

アクア・アートは、1996年7月に芙蓉リースの100%出資子会社として設立され、自然環境を再現した熱帯魚水槽のレンタル事業を行っています。

### 会社概要

設立	1996年7月
資本金	5,000万円
株主	芙蓉総合リース(100%)
事業内容	観賞用水槽の製造・販売・レンタル・メンテナンス

[「アクア・アート」のWebサイト](#)

## インテリア水槽「AQUA ART」

「AQUA ART」は、本物の生物を使い自然界の仕組みをそのまま水槽のなかに再現した商品です。水槽内の食物連鎖は「バランスド・アクアリウム」と呼ばれており、このバランスを維持するためにアクア・アートのスタッフが万全なメンテナンスを行っています。

「AQUA ART」は、オフィスや店舗、病院、学校などで、アクアリウム・インテリアとして、小さいお子様からお年寄りまで幅広い皆様に親しまれています。

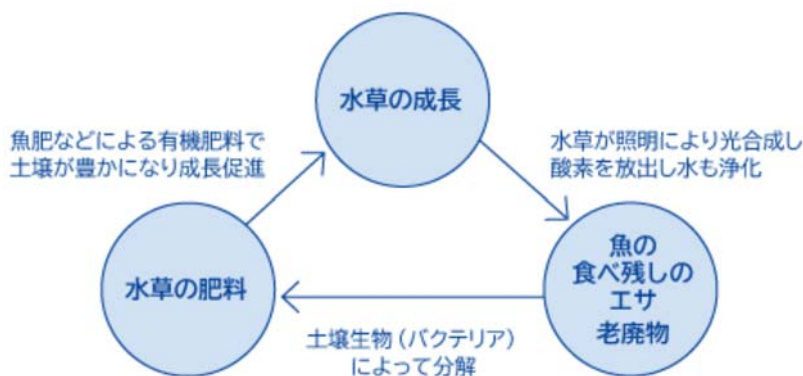
### (1) 人に社会に心安らぐ空間の提供

色鮮やかな魚、安らぎを与えてくれる水草、限りなく澄み切った水、見る人の心を魅了し、自然の素晴らしさと出会える瞬間を「AQUA ART」が心を込めて提供します。

### (2) 自然に関する教育

「AQUA ART」は、本物の生きた魚と水草によって食物連鎖をそのまま水槽のなかに再現した独自のシステムで、お子様が自然界の仕組みを学習するのに最適です。

#### ■ 「AQUA ART」のサイクルシステム



## 商品を通じた環境貢献

アクア・アートでは、2011年6月から、「AQUA ART」水槽の照明を従来の蛍光灯から、省エネ性の高いLEDに順次切り替えています。水槽の照明で使用する電力はごくわずかですが、少しでも省エネに役立つよう、この施策を推進しています。

2013年7月から新規設置水槽にはすべてLED照明を設置し、2016年6月末現在およそ580台の水槽でLED照明を使用しています。

### 水槽の大きさに合わせて、さまざまなLED照明を準備中



また、水槽のメンテナンス作業で巡回するために使用する車両の一部に電気自動車を導入しているほか、近隣へのメンテナンスには電動アシスト自転車を導入するなど、CO<sub>2</sub>削減への貢献にも努めています。



## 商品を通じた社会貢献

アクア・アートでは、2003年から地元の幼稚園や保育園の環境教育教材として、自社の商品であるインテリア水槽「AQUA ART」を寄贈する取り組みを始めました。

水槽を設置したときに園児たちから湧き上がる歓声と輝いた表情は、アクア・アート社員にとって大きな感慨となっており、地域への貢献だけでなく、社員一人ひとりのモチベーションアップにもつながっています。

2012年以降は、芙蓉リースと協働で、寄贈対象に都内・近県の母子生活支援施設や障害のある方の就労支援施設などを加え、寄贈台数は2016年3月末までに計51台となりました。

今後も、施設の皆様の「心の癒し」に少しでも役立つように努めていきます。

### 地元の幼稚園や母子生活支援施設に寄贈した「AQUA ART」水槽



## 大阪府流入車規制

---

大阪府は、「大阪府生活環境の保全等に関する条例」を改正し、トラック・バス等の規制対象自動車について、自動車NOx・PM法の排ガス基準を満たさない規制対象自動車の対策地域への流入を規制しています(2009年1月施行)。

当該規制により、対策地域を発着地とする規制対象自動車の運行を行う場合には、適合車を使用するとともに、大阪府が交付する適合車標章(ステッカー)を規制対象自動車に表示することを義務づけられています。

つきましては、当社グループとの取引に関しまして、対策地域を発着地として規制対象自動車を運行する場合には、適合車の使用義務および適合車標章の表示義務を遵守していただきますようお願いいたします。

当該規制の詳細については[大阪府のホームページ](#)  をご覧ください。



# 編集方針

---

## CSR(企業の社会的責任)について

---

CSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)とは、企業が、経済・環境・社会などの幅広い分野における責任を果たすことによって、企業自身の持続的な発展をめざす取り組みです。

リース会社である芙蓉リースは、環境や社会問題を解決する商品を自ら生産したり、技術開発をしたりするわけではありません。しかし、環境や社会問題を解決する商品や技術を生産・開発する企業活動を、リース事業を通じてサポートすることが、当社グループの果たすべきCSRだと考えています。

リース事業は、多種多様な設備・機器・製品のリースのみならず、割賦やファイナンスといった各種金融機能を駆使して企業活動を支え、社会に貢献しています。そうしたリース会社ならではの機能を発揮し、今後もステークホルダーの皆様との対話を進めながら、継続的にCSR活動を展開していきます。

## 本Webサイトについて

---

本Webサイトでは、芙蓉リースグループのCSR(企業の社会的責任)に対する取り組み姿勢と、2015年度に実施した主な活動をできる限り詳細に報告しています。グループ各社の取り組み事例についても報告していますので、ぜひご覧ください。

また、本Webサイト掲載記事のなかから、特に進捗のあった取り組みや注力している取り組みを中心にまとめた冊子「CSR報告書2016ハイライト版」も発行しています。

当社グループでは、ステークホルダーの皆様から幅広くご意見・ご感想を伺い、今後のCSR活動や報告書作成の参考にさせていただきたいと考えています。是非、ご質問・ご意見・ご感想などを、お寄せください。

[ご質問・ご意見・ご感想などはこちら](#)

<b>報告対象組織</b>	芙蓉総合リース株式会社および連結子会社39社および関連会社4社
<b>報告対象期間</b>	2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日) ※ 一部、対象期間外の報告を含んでいます。
<b>発行時期</b>	2016年10月(前回発行2015年10月)
<b>参考にしたガイドライン</b>	本報告の作成にあたってはGRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第4版」、環境省「環境報告ガイドライン2012」(財)日本規格協会「ISO 26000:2010 社会的責任に関する手引」を参考にしています。

## トップページの画像について

### インテリア水槽「AQUA ART」と少女

芙蓉リースグループは、「AQUA ART」を使った社会貢献活動「アクアdeスマイル」を通じて、オフィスや街中、そして都会の子供たちに「自然に触れる機会」と「笑顔」をお届けしています。

読者の皆様が「AQUA ART」と出会い、表紙の少女のように微笑んでくださること

それが当社グループの願いです。



### CSR(企業の社会的責任)についてのお問い合わせ先

芙蓉総合リース株式会社

コーポレートコミュニケーション室

TEL: 03(5275)8891 FAX: 03(5275)8950

ご質問・ご意見・ご感想などを、お寄せください。

[お問い合わせはこちら](#)

## 第三者意見

株式会社NTTデータ経営研究所

社会・環境戦略 コンサルティングユニット  
シニアマネージャー

大塚 俊和

### プロフィール

1962年生まれ。商社、フランス最大のインフラ企業「ビペンディ」(現ベオリア)勤務を経て、2001年より現職。  
ESG情報による外部格付け評価向上に関するコンサルティングを、多くの上場企業へ提供。



航空機から熱帯魚まで、私たちの身の回りのあらゆるものがリースによって提供されています。普段意識することはありませんが、リース業は密接に消費者とつながっており、リースによって提供される製品の環境性能が、消費者による製品の使用段階や廃棄における環境負荷を左右します。

芙蓉総合リースは、2014年4月に「CSR行動指針」を策定し、2016年度までの数値目標を設定していますが、「CSR報告書2016」では、新たに重要課題の特定プロセスに、マテリアリティ・マトリックス手法を取り入れ、重要課題の再評価を行い、「省エネルギー」、「CO<sub>2</sub>排出抑制」、「3R推進」、「地域コミュニティとの交流」の4つを最重要課題として位置づけています。これらの最重要課題の取り組みを定量的に評価するための、5つのKPI(Key Performance Indicator: 重要評価指標)を設定し、「CSR活動の目標値と実績」として進捗を開示しています。環境負荷低減に関するKPIとしては、「環境提案の件数」、「環境配慮型物件の取得金額」、「リマーケティングの買取物件数」などの独自のKPIを設定し、実績値を開示していますが、それぞれの取り組み成果について実例を挙げて、お客様の評価を掲載することにより、自画自賛となりがちなCSR報告書の客観性と信頼性を高めています。今後は、「環境提案」や「環境配慮型物件」の定義を明確に示すことにより、KPIとして設定する意味や価値についての理解がより深まると考えます。

芙蓉総合リースでは「物」だけではなく、美術館、病院、オフィスなどにおける「快適な環境」という付加価値も提供しています。「快適な環境」を経済的、環境的メリットと併せて顧客に提供するESCO事業を、芙蓉総合リースの事業の柱の一つとしていくことを「トップメッセージ」として明確に示しています。実例として紹介されている美術館におけるESCOサービスの提供は、地球環境と貴重な文化財の保護を同時に実現するという非常に高い社会的価値を創出するサービスであり、こうしたサービスのポテンシャルに大きな関心を抱きました。是非、来年度以降の報告書においてもこのような高付加価値サービスの事例の紹介を期待しています。

その他の重要課題では、「サプライチェーンマネジメント」における具体的施策として、取扱品目が膨大となるリース業においては算定が非常に難しい温室効果ガスのスコープ3算定に、限られた保有データを駆使して果敢に取り組んでいることが特筆されます。算定結果からは、自社の事業から排出される温室効果ガス排出量の、1,000倍以上の温室効果ガスがサプライチェーンにおいて排出されているとの結果が得られています。現状、未算定となっている、リース製品の顧客による使用段階の排出量を加算すると、さらに大きな数値となるのが想定されます。使用段階における算定を推し進めていくことは、データの収集に大きな障壁がありますが、一方において、水や廃棄物など、サプライチェーンにおけるその他の環境負荷の把握への道を開くことにもつながるので、是非、挑戦して欲しいところです。また、「女性活躍」の目標として、「女性管理職の登用目標を定めた2014年時点に対し、2020年までに1.5倍(40名)にする」と掲げていますが、事業の拡大により社員数が増加していくと想定される中、女性管理職比率についても実績値、目標値を開示することにより、芙蓉総合リースのダイバーシティ(多様性)における先進性を積極的にアピールすべきではないでしょうか。

パリ協定が発効し、気候変動問題の分野においては、単純に温室効果ガス排出量を減らせばよいという段階から、地球の平均気温上昇を産業革命前から2度未満に抑えるための、残された温室効果ガス排出許容量をどの様に配分すべきかという、科学的根拠に基づく長期的目標設定の段階へと移行しています。気候変動問題にかかわらず、すべての重要課題において長期的視点に立った目標の設定や施策の立案、さらには、設定した目標や実績の意味を分かりやすく解説していくことが全体を通じての課題であると考えます。

E(Environment)、S(Social)、G(Governance)に関する情報が、財務情報だけでは測ることのできない企業のレジリエンス(耐力)の評価指標として急速に注目を浴びています。「CSRの考え」にて標榜されている芙蓉総合リースの「強さ」と「優しさ」を、ESG情報の開示パフォーマンスに更なる磨きをかけて、ステークホルダに伝えて頂きたいと思えます。

# 「CSR報告書」PDFダウンロード

## CSR報告書2016



[CSR報告書2016 フルレポート版](#)  
(3.26MB)

[CSR報告書2016 ハイライト版](#)  
(7.58MB)

## CSR報告書2015



[CSR報告書2015 フルレポート版](#)  
(5.38MB)

[CSR報告書2015 ハイライト版](#)  
(12.19MB)

## CSR報告書2014



[CSR報告書2014 フルレポート版](#)  
(2.73MB)

[CSR報告書2014 ハイライト版](#)  
(7.94MB)

## CSR報告書2013



[CSR報告書2013 フルレポート版](#)  
(2.54MB)

[CSR報告書2013 ハイライト版](#)  
(4.19MB)

## CSR報告書2012



[CSR報告書2012 フルレポート版](#)  
(3.50MB)

[CSR報告書2012 ハイライト版](#)  
(4.37MB)

[CSR報告書アンケート](#) (104KB)  
CSR報告書をお読み頂いたご感想をお寄せください。

## CSR報告書2011



[CSR報告書2011](#) (4.44MB)

[CSR報告書アンケート](#) (153KB)  
CSR報告書をお読み頂いたご感想をお寄せください。

## CSR報告書2010



[CSR報告書2010](#) (8.12MB)

[CSR報告書2010](#)  
電子書籍の形式でご覧いただけます。

[CSR報告書アンケート](#) (410KB)  
CSR報告書をお読み頂いたご感想をお寄せください。

## CSR報告書2009



[CSR報告書2009](#) (5.56MB)

[CSR報告書2009](#)  
電子書籍の形式でご覧いただけます。

## CSR報告書2008



[CSR報告書2008](#) (2.53MB)

[CSR報告書2008](#)  
電子書籍の形式でご覧いただけます。

[CSR報告書2008 ダイジェスト版](#)  
(0.98MB)

## CSR報告書2007



[CSR報告書2007](#) (2.32MB)

## CSR報告書2006



[CSR報告書2006](#) (1.19MB)